

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

目次

法人全体	1
ケアハウスエルベ	10
ケアハウス淡路エルベ	12
ケアハウス東浦エルベ	15
ケアハウス山口エルベ	18
介護老人福祉施設ヴィラ勝占	22
介護老人福祉施設ヴィラ羽ノ浦	27
介護老人福祉施設ヴィラ本郷	32
介護老人福祉施設ヴィラ都筑	36
介護老人福祉施設ヴィラ町田	40
介護老人福祉施設ヴィラ神奈川	44
介護老人福祉施設ケアホーム板橋	48
介護老人福祉施設ケアホーム葛飾	54
介護老人福祉施設ケアホーム住吉	57
平成デイサービスセンター渭北	60
グループホーム八万	64
那賀町驚敷デイサービスセンター	68
平成デイサービスセンター平田	71
平成デイサービスセンター黒磯	75
平成デイサービスセンター鳴門	78
平成デイサービスセンター徳島	84
訪問ステーションてととと東大阪	87
訪問ステーションてととと徳島	92
O U C H I	97
岩国市岩国第三地域包括支援センター	104
サポートハウスココロネ住吉	106

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

1. 2024年度 事業報告の概要

- 業績等
 - 収益
 - 前年度比で5.0%増加
 - サポートハウスココロネ住吉の4年目の稼働により増収
 - 介護報酬改定に伴う増収
 - 介護職員等処遇改善加算への移行
 - 物価高騰・水光熱費高騰に関する補助金の継続
 - 稼働率
 - 入所系・居住系サービスでは、前年度同様クラスターの発生等によりほとんどの施設が目標の99%以上が達成できなかった。前年度と比較しても、特養で±0%、グループホームでは1.6%減、ケアハウスで1.1%減となった。
 - 通所系サービスでは、半数の事業所が目標の80%以上をクリアし、徐々に回復傾向となった。
 - 訪問系サービスでは、1事業所のみ利用者数増となったが、全体的には新規利用者の獲得が思うようにいかず減少傾向となった。
 - 収支改善
 - 介護報酬改定に伴う新設加算の積極的な算定
 - 営業・広報活動の継続的な実施
 - 人員配置の適正化及び業務の効率化
 - 各補助金の活用
- サービスの質
 - ご自身でできることはお手伝いいただく自立支援の取り組み
 - 業務改善委員会（生産性向上に関する委員会）の開催
 - 看取り介護のために利用者家族が宿泊できるような環境整備
 - 家族を交えた食事会等のレクリエーションの実施

- 人材の確保、育成
 - 研修の実施
 - E-ラーニングやオンラインを活用した研修会への積極的な参加
 - 資格取得の為の研修会への参加及び支援
 - 「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」におけるアセッサー講習の受講推進
 - 介護福祉士資格取得や専門技術・知識、日本語能力の向上に努めながら、積極的な外国人の雇用
 - 新入職員や介護未経験者に対する認知症介護基礎研修の受講の義務付け
 - 福利厚生充実、働きやすい職場環境の提供
 - ICT環境の整備
 - 有給休暇・育児・介護休業制度等の休暇取得の充実
 - ハラスメントに関する相談窓口の周知だけでなく、外部講師によるメンタルヘルス研修への参加促進
- 法人、グループ内の連携
 - 協力医療機関との連携会議を実施し、入所者等の情報共有、また緊急時の対応などの見直しを実施
 - 加算算定基準及び法令遵守に関する支援
- 地域貢献活動
 - 地域婦人会行事での作品作り、救命講習への参加
 - 地域のボランティア団体「こどものASOBIBA」のイベントやコラボイベント開催に向けた定例会議への参加
 - 公益活動法人・施設間との連携によりフードバンク岩国の運営及び地域への働きかけ
 - 花火大会（横浜市開催）イベント終了後のクリーンアップ活動への参加
 - 地域中学校への出前授業の実施
 - 地元高校の「服活（不要になった衣服を回収しイベントや地域の施設で無料で譲渡する活動）」への協力
 - 中学校より職場体験の受入
 - 地域住民と一緒に地域の清掃活動に参加
 - 移動図書館の受入
 - 町民体育祭への参加

- 地域支え合い活動として地域高齢者の買い物の移送車両提供に協力
- 幼稚園の園児との交流会の実施
- 児童養護施設に手作りおやつをプレゼントする事業
- 児童養護施設や地域での子供を対象としたアートレッスンの開催及び作品の展示
- 「みんなでごはん（地域食堂活動）」を区や包括支援センターなどと共催企画

- 新規事業
 - なし

- 改修工事
 - 給湯器の入替工事
 - 機械浴槽の入替工事
 - LED交換工事

- 感染症等への対応
 - 業務継続計画の内容の更新及び周知徹底
 - 日常的な感染対策に加え、研修や訓練の実施
 - 協力医療機関のICTチームによる施設、設備の衛生管理や感染ラウンドの実施

- 各種補助金
 - 物価高騰・水光熱費高騰に関する補助金
 - 東京都
 - 介護サービス事業所燃料費高騰緊急対策支援金
 - 特別養護老人ホーム等物価高騰緊急対策支援金
 - 板橋区_介護施設物価高騰対策支援金
 - 足立区_物価高騰支援に係る障がい福祉サービス等事業所に対する特別給付金
 - 横浜市
 - 横浜市高齢者施設等物価高騰対策支援事業
 - 兵庫県
 - 高齢者施設等における光熱費等高騰対策一時支援金
 - 入院時食事療養支援事業
 - 神戸市_物価高騰対策支援給付金（介護・高齢福祉）
 - 神戸市_医療機関等物価高騰対策一時支援金
 - 淡路市_高齢者施設原油価格・物価高騰対策一時支援金
 - 南あわじ市_社会福祉施設等物価高騰対策支援金

- 徳島県
 - 医療・社会福祉施設等電気料金等高騰対策等事業支援金
 - 阿南市_介護施設等物価高騰支援助成金
 - 鳴門市_高齢者施設等物価高騰対策支援事業
- 山口県
 - 介護施設等物価高騰緊急対策支援事業補助金（光熱水費）
 - 介護施設等物価高騰緊急対策支援事業補助金（食材料費）
- その他補助金
 - 東京都
 - 社会福祉施設等への非常用電源等整備促進事業補助金
 - 介護職員・介護支援専門員居住支援特別手当事業
 - 神奈川県
 - 介護ロボット・ICT導入支援事業費補助金
 - 全都道府県
 - 介護職員処遇改善支援補助金

２．運営状況（稼働率、利用者数）

※（ ）の数値は対前年度の増減

高齢者事業

- 特養（稼働率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
ヴィラ勝占（入所）【50名】 （ショート）【10名】	99.3% 88.2%	99.2%（▲0.1%） 91.3%（+3.1%）	99.0%（▲0.2%） 92.9%（+1.6%）
（合計）【60名】	97.5%	97.9%（+0.4%）	98.0%（+0.1%）
ヴィラ羽ノ浦（入所）【50名】 （ショート）【10名】	97.8% 78.2%	99.8%（+2.0%） 68.9%（▲9.3%）	99.8%（±0%） 75.0%（+6.1%）
（合計）【60名】	94.6%	94.6%（±0%）	95.7%（+1.1%）
ヴィラ本郷（入所）【30名】 （ショート）【10名】	90.1% 85.9%	93.4%（+3.3%） 78.1%（▲7.8%）	96.7%（+3.3%） 88.0%（+9.9%）
（合計）【40名】	89.0%	89.6%（+0.6%）	94.5%（+4.9%）
ヴィラ都筑（入所）【110名】 （ショート）【10名】	98.2% 79.3%	97.2%（▲1.0%） 87.5%（+8.2%）	98.0%（+0.8%） 88.2%（+0.7%）
（合計）【120名】	96.7%	96.4%（▲0.3%）	97.2%（+0.8%）
ヴィラ町田（入所）【200名】 （ショート）【20名】	98.2% 93.9%	97.0%（▲1.2%） 93.5%（▲0.4%）	98.6%（+1.6%） 98.8%（+5.3%）
（合計）【220名】	97.8%	96.6%（▲1.2%）	98.6%（+2.0%）
ヴィラ神奈川（入所）【140名】 （ショート）【20名】	98.1% 85.1%	98.9%（+0.8%） 91.1%（+6.0%）	99.0%（+0.1%） 91.0%（▲0.1%）
（合計）【160名】	96.5%	97.9%（+1.4%）	98.0%（+0.1%）
ケアホーム板橋 （入所）ニット【140名】 （入所）従来【60名】 （ショート）【20名】	94.2% 97.7% 83.1%	94.3%（+0.1%） 94.5%（▲3.2%） 88.5%（+5.4%）	97.5%（+3.2%） 99.1%（+4.6%） 93.0%（+4.5%）
（合計）【220名】	94.1%	93.8%（▲0.3%）	97.5%（+3.7%）
ケアホーム葛飾 （入所）【120名】 （ショート）【18名】	96.4% 96.0%	98.0%（+1.6%） 92.0%（▲4.0%）	98.6%（+0.6%） 95.5%（+3.5%）
（合計）【138名】	96.4%	97.2%（+0.8%）	98.2%（+1.0%）
ケアホーム住吉 （入所）【100名】 （ショート）【20名】	100.4% 78.1%	100.5%（+0.1%） 74.8%（▲3.3%）	100.0%（▲0.5%） 90.9%（+16.1%）
（合計）【120名】	96.7%	96.2%（▲0.5%）	98.5%（+2.3%）

- グループホーム（稼働率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
グループホーム勝占 【18名】	98.2%	95.4% (▲2.8%)	98.2% (+2.8%)
グループホーム本郷 【18名】	95.8%	95.9% (+0.1%)	97.6% (+1.7%)
グループホーム板橋 【18名】	97.4%	90.8% (▲6.6%)	98.0% (+7.2%)
グループホーム渭北 【18名】	95.2%	96.1% (+0.9%)	96.5% (+0.4%)
グループホーム八万 【18名】	93.6%	90.3% (▲3.3%)	97.0% (+6.7%)
グループホーム鳴門 【18名】	95.6%	97.8% (+2.2%)	98.9% (+1.1%)

- ケアハウス（稼働率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
ケアハウスエルベ（一般） 【70名】	96.0%	96.6% (+0.6%)	96.7% (+0.1%)
ケアハウス淡路エルベ （一般）【40名】 （特定）【30名】	97.8% 90.3%	97.3% (▲0.5%) 91.2% (+0.9%)	100.0% (+2.7%) 97.5% (+6.3%)
ケアハウス東浦エルベ （一般）【50名】 （特定）【30名】	99.7% 97.1%	99.5% (▲0.2%) 89.8% (▲7.3%)	99.7% (+0.2%) 95.3% (+5.5%)
ケアハウス山口エルベ （一般+特定）【50名】	97.5%	95.8% (▲1.7%)	98.0% (+2.2%)
ケアハウス板橋 （一般）【20名】	92.7%	93.7% (+1.0%)	100.0% (+6.3%)

- 訪問看護（延べ人数）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
訪問ステーションてとと東大阪	16,171名	15,206名 (▲965名)	16,166名 (+960名)
訪問ステーションてとと徳島	18,486名	21,749名 (+3,263名)	25,408名 (+3,659名)

- 訪問介護（延べ人数）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
平成ホームヘルパーステーション 黒磯	4,551名	4,301名（▲250名）	4,711名（+410名）

- 小規模・看護小規模（登録率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
八万小規模多機能センター 【29名】	93.1%	93.1%（±0%）	96.5%（+3.4%）
鳴門小規模多機能センター 【29名】	55.2%	53.4%（▲1.8%）	60.3%（+6.9%）

- 通所介護（稼働率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
平成デイサービスセンター羽ノ浦 【20名】	68.7%	73.3%（+4.6%）	79.0%（+5.7%）
平成デイサービスセンター町田 2024.6月より【20名→22名】	90.0%	82.6%（▲7.4%）	85.2%（+2.6%）
平成デイサービスセンター神奈川 【20名】	76.9%	64.9%（▲12.0%）	80.0%（+15.1%）
平成デイサービスセンター渭北 【23名】	79.4%	83.9%（+4.5%）	89.0%（+5.1%）
那賀町驚敷デイサービスセンター 【35名】	62.1%	60.8%（▲1.3%）	67.5%（+6.7%）
平成デイサービスセンター平田 【50名】	92.2%	91.6%（▲0.6%）	91.8%（+0.2%）
平成デイサービスセンター黒磯 2025.4月より【35名→30名】	69.4%	69.8%（+0.4%）	87.3%（+17.5%）
平成デイサービスセンター鳴門 【25名】	81.2%	89.5%（+8.3%）	92.6%（+3.1%）
平成デイサービスセンター徳島 【26名】	85.3%	89.2%（+3.9%）	93.0%（+3.8%）

- 居宅（ケアプラン数）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
平成在宅介護支援センター平田	1,714名	1,669名（▲45名）	1,728名（+59名）
訪問ステーションてとと徳島	777名	773名（▲4名）	837名（+64名）

- 有料老人ホーム（稼働率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
メディケアハウス平成【20名】	96.9%	98.4%（+1.5%）	98.9%（+0.5%）

障がい者事業

- 就労継続支援B型（稼働率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
OUCHI CAFE KITCHEN 【20名】	76.1%	93.1%（+17.0%）	95.0%（+1.9%）

- 共同生活援助（稼働率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
OUCHI HOME 【14名】	87.8%	91.6%（+3.8%）	100.0%（+8.4%）

- 医療型障害児入所施設（療養介護・短期入所）（稼働率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
サポートハウスココロネ住吉 【50名】	62.6%	84.3%（+21.7%）	91.0%（+6.7%）

- 生活介護（稼働率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
ココロネリビング 【10名】	42.2%	62.6%（+20.4%）	85.2%（+22.6%）

- 放課後デイサービス（稼働率）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
ココロネクラブ【5名】	48.5%	73.4%（+24.9%）	80.1%（+6.7%）

- 計画相談支援（支援者数/月）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
西新井まちの相談室	24.6名	33.9名（+9.3名）	39.0名（+5.1名）

その他事業

- 地域包括支援センター（ケアプラン数）

事業所名	2023年度	2024年度	2025年度 目標
大谷口地域包括支援センター	3,453名	3,625名（+172名）	3,652名（+27名）
岩国市岩国第三地域包括支援センター	1,994名	2,025名（+31名）	1,723名（▲302名）

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

エルベ（ケアハウス）【定員：一般-70名】

高齢者事業

エルベ（ケアハウス）【定員：一般-70名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 補助金の基準額が増額されたため、前年度と比較して増加。
 - 稼働率
 - 4月、5月、2月と入退居の調整がスムーズに行えず稼働率が低迷したが、8月から12月は100%に近い稼働率を維持できた。
 - 一人暮らしの方からの相談が増加した。
 - 病院や居宅介護支援事業所に定期的に営業していたことで、年度末に問い合わせが急増した。
 - 収支改善
 - 施設内の照明や空調の温度管理を徹底し、節約に繋げた。
 - 消耗品の使用料を確認し、無駄な使用を控えた。
 - サービスの質
 - 入居者からの相談を拝聴し、状態にあったサービスを提案した。
 - 介護サービス担当者より体調不良者の連絡があった際に、入居者の状況を施設職員が確認した上で、病院へ相談し受診するよう努めた。
 - 人材の確保、育成
 - 体調不良時に無理をせず休みやすい環境づくりに努めた。
 - 有給休暇を取得しやすい環境づくりに努めた。
 - 業務内容を見直し、業務量の偏りがないよう業務配分を行った。
 - 地域貢献活動
 - 施設内ホールを開放し、地元の俳句クラブや太極拳をしている方に利用していただいた。
 - 地域の消防隊員に参加いただき防災訓練を実施した。訓練後に消火散水栓と水消火器の使用方法を教わった。
 - 改修工事
 - ポンプ室給湯配管修理
 - 大浴場給湯配管修理
 - 施設全体蛍光灯 LED変更
- 主な指標

- 一般

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	96.0%	96.6% (+0.6%)	96.7% (+0.1%)
単価（人・日）	4,103円	4,136円 (+33円)	4,110円 (▲26円)

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

淡路エルベ（ケアハウス）【定員：一般-40名 特定施設-30名】

高齢者事業

淡路エルベ（ケアハウス）【定員：一般-40名 特定施設-30名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 補助金
 - 兵庫県 物価高騰対策一時支援金
 - 825,000円/年
 - 南あわじ市 社会福祉施設等物価高騰対策支援金
 - 99,000円/年
 - 稼働率
 - 退居後の部屋の修繕、感染症発生、急な退居等で入退居がスムーズに出来なかったことや入院する方が多く稼働率が低下する原因となった。
 - 介護度の重い方の受入を積極的に行った。また状態変化があった場合に適切な介護度でサービス提供ができるよう区分変更（6名）も行い、それにより平均要介護度も増加となった。
 - 収支改善
 - 物品発注や新規購入において在庫管理徹底や必要性の再検討を行って管理した。
 - 施設内外照明や空調の温度管理、節水についても積極的に行った。
 - 介護度の重い方の受け入れや利用者様の状態変化があれば、家族様へ報告し区分変更申請の検討について話し合いを行い、区分変更をしたことにより平均要介護度が上がり介護報酬増収につなげることができた。
 - サービスの質
 - 接遇面の向上を継続して目指し、ミーティングで接遇面の申し送りを行ったり定期的に勉強会を実施した。
 - オンライン面会を継続し、遠方の家族、入居者様にも喜んで頂いた。
 - 生活機能向上連携加算の算定により、併設医療機関所属の理学療法士と連携し、特定施設利用者個々に対して効果的な機能訓練を実施できた。
 - 宅配サービスや近隣のコンビニ、ドラッグストアを活用し、買い物支援を行った。
 - 併設病院平成病院で週1回開催されるいきいき百歳体操への入居者参加

○ 地域貢献活動

- 南あわじ市の社会福祉法人11法人が協働して地域を支える南あわじ市社会福祉法人連絡協議会へ参加し、児童や生活困窮への支援、また災害時地域への貢献活動の準備に取り組み、市内福祉まつりに参加し自施設の案内を行った。
また、防災訓練に参加、災害ボランティアセンター設営訓練に参加した。
- 月2回南あわじ市地域ケア会議へ参加し、民生委員の方に対し入居に関する相談や居宅ケアマネージャーへの営業を実施した。

○ 改修工事

- 給湯器入れ替え、居室混合水栓入れ替え（2024年4月）
- エアコン入れ替え（2024年5月）
- 給湯配管漏水修理配管工事（2024年9月）
- スチームコンベクション入れ替え（2024年10月）
- 消防用設備修繕（2024年12月）

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

○ 一般

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	97.8%	97.3% (▲0.5%)	100% (+2.7%)
単価（人・日）	3,778円	3,764円 (▲14円)	3,873円 (+109円)

○ 特定施設

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	90.3%	91.2% (+0.9%)	97.5% (+6.3%)
平均要介護度	1.3	1.5 (+0.2)	1.7 (+0.2)
単価（人・日）	9,895円	10,412円 (+517円)	10,657円 (+245円)

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

東浦エルベ（ケアハウス）【定員：一般-50名 特定施設-30名】

高齢者事業

東浦エルベ（ケアハウス）【定員：一般-50名 特定施設-30名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 補助金
 - 兵庫県 光熱費等高騰対策一時支援金
 - 935,000円/年
 - 淡路市 原油価格物価高騰対策一時支援金
 - 935,000円/年
 - 稼働率
 - 一般入居は退居後すぐに新規入居者を入れることが出来、稼働率は高値を維持できた
 - ケアハウスの処遇改善加算増額により単価を上げることができた
 - 特定入居は利用者の入院が続き稼働率低下となってしまった
 - サービスの質
 - 東浦平成病院健康教室への参加
 - 入居者の健康管理、情報提供
 - 毎回10名程度参加
 - 東浦平成病院敬老会への参加
 - ジャズ音楽、ダンスの観覧
 - 約30名参加
 - 施設内敬老会開催
 - 音楽療法士によるギター演奏と歌唱
 - 約45名参加
 - 人材の確保、育成
 - 介護福祉士国家資格取得についてサポート
 - 2名受験し、2名合格
 - 特定介護職員介護福祉士割合2025年4月からは100%になる予定
 - 地域貢献活動
 - 淡路市ふれあいコンサートに参加
 - ハンドベルにて職員が参加
 - 入居者4名観覧
 - 淡路社会福祉協議会主催の仁井サロンに参加
 - 主催者側からの依頼があり施設長が対応

- 参加者約12名に施設パンフレットを用いて施設紹介
- 淡路社会福祉協議会の牛すじコロッケお取り寄せ
 - 入居者に希望を聞き購入、合計50個をお取り寄せ
 - おやつの時間にコロッケを皆さんで食べて楽しんだ

○ 新規事業・改修工事

- 非常用照明交換工事（2024年4月）
- 機械室塩素滅菌ポンプ取替工事（2024年4月）
- 火災報知器光電式スポット型感知器交換工事（2024年7月）
- 公用車ムーブからハイゼットに入れ替え（2024年6月）
- 厨房機器スチコン修理（2024年9月）
- 厨房機器ガステーブル、スープレンジ入替工事（2024年9月）
- 2階非常用ドア取替工事（2024年12月）
- 火災受信機入替工事（2024年12月）
- 機械室給湯循環ポンプ取替工事（2025年1月）
- 施設内LED改修工事（2025年3月）
- 厨房機器ガスメーター交換工事（2025年3月）

主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

○ 一般

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	99.7%	99.5%（▲0.2%）	99.7%（+0.2%）
単価（人・日）	3,485円	3,610円（+125円）	3,990円（+380円）

○ 特定施設

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	97.1%	89.8%（▲7.3%）	95.3%（+5.5%）
平均要介護度	1.5	1.4（▲0.1）	2.0（+0.6）
単価（人・日）	9,885円	9,740円（▲145円）	10,119円（+379円）

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

山口エルベ（ケアハウス）【定員：特定施設-50名】

高齢者事業

山口エルベ（ケアハウス）【定員：特定施設-50名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 介護報酬の改定等により、前年度比3.4%の増。
 - 事務費補助金及び生活費の改定により、約1%の増。
 - 補助金
 - 介護施設等・障害者施設等物価高騰緊急対策支援事業補助金
 - 社会福祉施設等物価高騰対策支援金
 - 稼働率
 - 近隣の医療機関や介護保険施設等との連携を密に行い稼働率アップに努めたが、入院等による急な退居が重なり想定していた成果が得られず低下した。
 - 収支改善
 - 介護報酬改定等における収支改善
 - 介護報酬改定により新設された加算、既存の単位数から変更のあった加算の算定により、一人当たり月約300円の増。
 - 継続算定中の加算の区分変更、新たに開始となった加算の算定により、一人当たり月約4,200円の増。
 - 処遇改善加算率の変更に伴い、一人当たり月1.3%の増。
 - 継続算定中の加算については取りこぼしなく算定できた。
 - 事務費補助金等改定における収支改善
 - 事務費補助金及び生活費の改定により、一人当たり月約1,800円の増。
 - 人件費
 - グループ内事業所の廃止に伴う介護職員の異動により約9%上昇した。
 - 経費
 - 老朽化による建物の修繕や館内照明のLED化等により、約600万円の費用がかかった。
 - 収支
 - 前年度比約19.7%の減収となった。

○ サービスの質

- 外部業者による訪問販売を継続実施し、入居者自身で選択・購入する機会の提供ができた。
- 月2回以上のイベントを立案・開催し、充実した余暇活動を提供することができた。
- 入居者の外出機会を増やし、社会的なつながりがもてるよう支援することができた。
- 業務改善委員会を中心とした業務内容の見直し及び改善を行い、業務の効率化を図れた。

○ 人材の確保、育成

- 研修の実施
 - 毎月施設内勉強会を実施し、様々なテーマについて学んだ。
 - 毎月eラーニングを活用した研修を実施し、ケアに対する知識を深めることができた。
- キャリアパス制度の整備など人事管理、制度の適正化
 - 働きやすい労働環境を目指し、定時退社の徹底・有給休暇の取得促進や、子の看護休暇など各種制度の積極的な活用を行った。
- 法人、グループ内の連携
 - 相互に連携・協力体制を持ち、入退院・入退所状況の情報を共有して、切れ目のない医療・福祉サービスを提供できた。

○ 地域貢献活動

- 慰問ボランティアの招致を行った。
- 自治体主催の災害訓練に参加した。
- 地域の清掃活動に参加した。

○ 改修工事

- 特殊浴槽修理（2024年5月）
- 館内照明LED入替工事（2024年7月）
- エレベーターシャフト内漏水工事（2024年8月）
- 厨房内換気システム更新工事（2024年12月）
- 浄化槽ばっ気ブローア取替工事（2025年3月）
- 非常用発電設備修理（2025年3月）

○ 協力医療機関との連携

- 協力医療機関と毎月話し合う機会を設け、感染症が発生した場合の対応や地域における感染症まん延状況等の情報共有を行い、注意喚起や予防対策を講じる事が出来た。
- 感染対策委員会を中心とした施設内研修会の開催や実技訓練の実施により、感染対策の徹底ができた。

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

○ 一般

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	0%	0% (±0%)	0% (±0%)
単価 (人・日)	0円	0円 (±0円)	0円 (±0円)

○ 特定施設

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	97.5%	95.8% (▲1.7%)	98.0% (+2.2%)
平均要介護度	1.6	1.7 (+0.1)	1.7 (±0)
単価 (人・日)	9,670円	10,201円 (+531円)	10,720円 (+519円)

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ勝占（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

グループホーム勝占【定員：18名】

高齢者事業

ヴィラ勝占（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 入所
 - 介護報酬改定による新たな加算として、協力医療機関連携加算、高齢者施設等感染対策向上加算を算定することができ、増収に繋げることが出来た。
 - ショート
 - 機能訓練指導員の配置が安定できず、加算が算定できない月が多かった。
 - 稼働率
 - 入所予定者の体調不良による入所延期が重なり、急な入所に対応できる待機者が獲得できず、稼働率が低下した。
 - 収支改善
 - 光熱費の高騰が継続しているが、施設全体で不必要な電気は消し節約に繋げることができた。
 - 本入所の待機者獲得に努め、ショートからの受け入れを積極的に行った。
 - サービスの質
 - 協力医療機関との連携会議を毎月開催することにより、入所者様の病状が急変した際の相談体制及び診療体制の確保に努め、医療依存度が高い方でも安心して生活をしていただく事ができた。
 - 勝占カフェを毎月開催し、お好みのドリンクやデザートをいただきながらご家族や友人とのゆったりとした楽しい時間を、過ごしていただく事ができた。
 - 施設内で猫を飼い入居者様と触れ合うことにより、ストレスの軽減やリラックス効果が見られ、コミュニケーションの促進、意欲向上を図ることができた。
 - 感染対策を継続して行い、サークル活動及び四季折々の行事、又ドライブや散歩を実施し充実した施設生活を送っていただけるよう努めた。
 - ボランティアさんの受け入れや、全体でのサークル活動及び季節の行事等を積極的に開催し、余暇活動の充実を図った。
 - 人材の確保、育成
 - ケアアドバイザー指導による介護技術研修会に、介護職員全員参加し研鑽を積んだ。
 - 施設内研修においてはe-ラーニングを活用し、知識の習得に努めた。又外部研修ではzoomを活用し、積極的に意見交換や学習の場を獲得することができた。
 - 資格取得
 - 認知症介護実践者研修 1名受講。

- 認知症介護リーダー研修 1名受講。
- おむつマイスターを受講し、アテントマイスタープロ7名取得。

○ 地域貢献活動

- 併施設からの紹介にて、地域の方の趣味活動の交流の場として1階会議室をお使いいただいている。
- 勝占分署や勝占分団の方々に防災避難訓練に参加していただいた。
- 近隣中学校の部活会議に1階会議室を提供した。

○ 改修工事

- 厨房エアコン（1台）追加購入
- ガス給湯器（2機）購入。
- 上水用ポンプ水漏れ修理。
- 受水槽配管修理。
- 館内照明LED入替工事。

○ 感染症への対応

- 利用者様の面会を感染対策をしていただいたうえで制限を全面的に無くし、家族様とのゆったりとした時間を過ごしていただくことができた。
- 感染委員会を中心に、感染症予防の勉強会、シュミレーション、PPE実技訓練を実施し、急な感染に対応できるよう備えた。

● 主な指標

○ 入所+ショート

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	97.5%	97.9% (+0.4%)	98.0% (+0.1%)

○ 入所

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	99.3%	99.2%(▲0.1%)	99.0%(▲0.2%)
平均要介護度	4.1	4.0 (▲0.1)	4.0 (±0)
単価（人・日）	14,874円	15,245円 (+371円)	15,265円 (+20円)

○ ショート

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	88.2%	91.3% (+3.1%)	92.9% (+1.6%)
平均要介護度	3.8	3.7(▲0.1)	3.7(±0)
単価（人・日）	13,617円	14,459円 (+842円)	14,582円 (+123円)

グループホーム勝占【定員：18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 前年度と比較して稼働率は低下したが、介護報酬改定により基本報酬が引き上げになったこと、7種類の加算が新設され算定可能な加算を取りこぼしなく算定したことで増収に繋がった。
 - 稼働率
 - 7月を除き毎月複数名の方が入院となったが、入院が短期間になると予測された方が多かった為、退居ではなく外泊扱いとしたことで、その間空床が発生し稼働率の低下に繋がった。年間を通して稼働率100%を達成したのは1ヶ月のみで、前年度の稼働率98.2%を大きく下回る結果となった。
 - 収支改善
 - 介護報酬改定により新設された協力医療機関連携加算（Ⅰ）や高齢者施設等感染対策向上加算（Ⅰ）退居時情報提供加算を取りこぼしなく算定した。
 - 管理栄養士協力の下、栄養管理体制加算の算定を継続し、入居者様の栄養状態の改善に努めた。
 - 入居者様が入院した際には協力医療機関と情報を共有し連携を図ることで早期の退院へと繋げ、入院時費用を算定することができた。
 - 物品の在庫管理を行い、過剰発注やストックを控えた。
 - サービスの質
 - アンケートの実施
 - 入居者様及び家族様へ生活環境や接遇に関するアンケートを実施した。全ての項目において全員から満足との回答を得ることができたが、結果に満足することなく掃除や整理整頓に努め、接遇に関する勉強会を開催した。
 - 職員満足の追及
 - 業務改善委員会を立ち上げ定期的に委員会を開催することで、職員が業務分担や内容に関して自分達で考え意見を出すことが増えた。話し合いを重ねながら職員の意見を取り入れることで、職員満足度の向上に繋がったと感じている。また、有給休暇の取得を促進することで、ワークライフバランスの充実を図ることができた。
 - 余暇活動の充実
 - 毎日レクリエーションを実施することができた。毎月の行事についても、入居者様に楽しんでもらいたいという職員のアイデアを形にし、実施することができた。
 - 家族交流
 - 9月に家族会を開催し9名のご家族様に出席していただくことができた。

た。自宅に一時帰宅したり、食事やお茶を飲みに出かけたり、ご家族様と外出する機会が増えた。

■ 感染対策

- 入居者様1名がコロナウイルスに罹患したが、感染が広がることはなかった。基本的な感染症対策の継続と勉強会や実技訓練を通して標準予防策についての理解を深めた。

○ 人材の確保、育成

■ 研修や勉強会への参加の機会の確保

- Web研修を活用して法人内外の研修に参加することができた。また、参加する職員が偏らないよう配慮し、職員が満遍なく学ぶ機会を持てるよう努めた。また、グループホーム内での勉強会においてはe-ラーニングを活用すると共に、ケアアドバイザーに講師を依頼し、介護の実技研修を積極的に取り入れた。

■ 資格取得

- 認知症介護実践者研修を1名受講した。

■ 人材の確保

- 他部署からの異動があり人材を確保することができた。

○ 地域貢献活動

■ 地域交流

- 2ヶ月に1度開催している運営推進会議に毎回地域の民生委員が出席してくれている。徳島市地域包括支援センターを通して地域の方が参加する100歳体操の場所を貸してもらえないか、民生委員からも趣味活動の練習場所を貸してもらえないかとの相談を受け、民生委員には週1回1階の会議室を利用いただいている。また、勝占分署の署員や勝占分団の団員に防災避難訓練に参加していただくこともあり、地域との繋がりは徐々に広がっている。

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	98.2%	95.4% (▲2.8%)	98.2% (+2.8%)
平均要介護度	2.5	2.5 (±0)	2.7 (+0.2)
単価 (人・日)	12,484円	13,067円 (+583円)	13,068円 (+1円)

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ羽ノ浦（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

平成デイサービスセンター羽ノ浦（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ羽ノ浦（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 入所では、年間平均稼働率が上がり約1,140万円の増収となった。介護報酬改定により「協力医療機関連携加算Ⅰ・高齢者施設等感染症対策向上加算Ⅰ」等の新規加算を算定できた。
 - ショートにおいては、昨年4月から11月まで新たに看護体制加算Ⅲ・Ⅳを算定したものの、夏場のコロナ感染症クラスターによる利用控えやロングショートの入所転換等により稼働率を下げ、前年度から約5万円の減収となった。
 - 4月の介護報酬改定を機に、特養とショートの料金のバランスを考慮し、ショートの居住費を特養と同様に徴収することになったこと、また看護体制加算Ⅲ・Ⅳが算定できたことにより単価が1,500円以上増となった。
 - 稼働率
 - 入所では、前年度を上回り99.8%（+2.0%）となった。夏場にコロナ感染症クラスターに見舞われ、状態悪化により入院された方もいたが、早期の治療・再入所受入れ、ロングショートからの入所転換等により空床期間を短くすることができた。
 - ショートでは前年度を大きく下回る68.9%（▲9.3%）となった。状態悪化による入院や夏場のクラスター時（一時期）にロングショートから入所への転換が集中したこと等から稼働が低調となり、回復するまでに時間を要した。
 - 収支改善
 - 入所では、年度末に介護経験10年以上の介護福祉士2名の異動・退職があったものの日常生活継続支援加算（Ⅰ）の算定は維持できた。
 - ショートステイでは、専従看護師の退職により昨年12月より看護体制加算Ⅲ・Ⅳの算定を取り下げた。サービス提供体制強化加算Ⅱの算定は維持することができた。
 - サービスの質
 - 令和6年度新設の協力医療機関連携加算では、入所者の現病歴に関する情報共有や、緊急時における対応手順などを定期的な会議を通じて確認していくことが義務付けられ、入所者の皆様の医療ニーズにこれまで以上に的確に対応できる体制が整った。
 - 高齢者等感染症対応加算においては医療機関で開催される感染対策に関する研修または訓練に年1回参加することが義務付けられており、加算の新設により入所者さんだけでなく、介護にあたるスタッフにとっても、より

安心して日々の業務に取り組める環境が整備できた。

- 阿南市高齢者福祉計画では、阿南市における高齢化率は34.2%（2023年12月末時点）となっており、「高齢者を取り巻く環境、入所・利用者の要介護度や抱えている疾病も開設当初とは大きく様変わりしている。認知症対応力の向上も不可欠となり、受講が義務化された認知症介護基礎研修は無資格の介護職員全員が修了している。3名の修了者がいる認知症介護実践者研修も2024年度は新たに介護支援専門員が受講した。また、新たに1名が認定特定行為業務従事者の登録をし、少しずつではあるが医療的措置が必要であったり、重度化している高齢者の受入れの充実を図ることができた。

○ 人材の確保、育成

- グループで進める「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」の浸透・促進のため、介護マネージャーを中心として介護チーフ、介護トレーナーがそれぞれの役割を認識・遂行し、介護課全体の業務が円滑に行われるよう努めた。
- 外国人雇用について、3号技能実習生1名（バングラデシュ）、特定技能1号（バングラデシュ）に加え、2024年12月より新たにインドネシア人介護福祉士候補者2名を受入れ、共に介護福祉士資格取得を目指し専門技術・知識、日本語能力の向上に努めている。

○ 地域貢献活動

- 地域のボランティア団体「こどものASOBIBA」のイベントや今後のコラボイベント開催に向けた定例会議へ職員が参加している。
- 2024年度は悪天候の影響で中止となったが、コロナ禍で受入れが出来なかった中学生の職場体験の受入れを再開した。

○ 改修工事・備品修理及び購入

- ナースコール 改修工事
- エレベータードア基盤 交換
- 塩素注入装置 交換
- 消防用設備 修繕

● 主な指標

○ 入所+ショート

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	94.6%	94.6%（±0%）	95.7%（+1.1%）

○ 入所

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	97.8%	99.8% (+2.0%)	99.8% (±0%)
平均要介護度	4.1	4.1 (±0)	4.1 (±0)
単価 (人・日)	12,590円	12,998円 (+408円)	13,010円 (+12円)

○ ショート

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	78.2%	68.9% (▲9.3%)	75.0% (+6.1%)
平均要介護度	3.2	3.1 (▲0.1)	3.1 (±0)
単価 (人・日)	10,408円	11,977円 (+1,569円)	11,955円 (▲22円)

平成デイサービスセンター羽ノ浦（通所介護）【定員：20名】

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益

- 2023年度の実績によりADL維持等加算の算定要件を満たせなかったが、個別機能訓練加算の実績増、新設の介護職員等処遇改善加算（Ⅰ）の算定及び稼働率向上により約150万円の増収となった。

- 稼働率

- 利用者の入院・入所、コロナ等感染症罹患による利用休止や利用控えの影響が少なく、居宅事業所からの新規依頼を確実に利用定着に繋げることができたことから、年間を通して少しずつ稼働率を上げることが出来た。年平均稼働率は前年比4.6%増となった。

- 収支改善

- 個別機能訓練を担当するリハビリ職員の交代があり、HPでの広報や営業でのアピール、積極的な居宅訪問に努めたことにより、訓練・算定実績が上がり増収となった。
- 管理栄養士が介入し、利用者の食生活・栄養状態を改善することを目的としてアセスメントを行い、昨年12月より栄養アセスメント加算の算定を開始した。

- サービスの質

- 特養部門と同様、認知症高齢者や医療必要度の高い方の利用や需要が増えていることから各種研修に参加し、知識及び個別対応法について学ぶ機会を増やした。

- 利用者さんの自立支援に向けた取り組みとして、昼食後の下膳や食器洗浄、清掃、施設内イベント開催に向けた飾り付け等のお手伝いをしてもらうことにした。作業に慣れた現在では、スタッフからの声掛けがなくとも利用者さんが自身の役割という自覚を持って率先して実施するようになった。また、新たな作業の提案等もしていただけるようになり、利用者さん主体の取り組みや作業が浸透した。
- 人材の確保、育成
 - 昨年4月より新たに役職者（デイ主任）が就任し、リハビリ職員の交代もあったことから体制と共に職場の雰囲気も変わった。年度当初は不慣れな面も見られたが、徐々に居宅事業所の介護支援専門員とも顔馴染みの関係となり、新規利用者の紹介・稼働率向上に繋がった。
 - 稼働率の向上と共にワゴンタイプの車両での送迎機会が増え、これまであまり運転することのなかったスタッフも少しずつ同車両での送迎に従事できるようになった。
- 地域貢献活動
 - 介護予防・健康教室「ヴィラ羽ノ浦健康クラブ」の定期開催が定着した。健康運動指導士の資格を持つ講師を招き、施設近隣に住む要介護・要支援とならない方を対象にフレイル予防運動を指導してもらっている。
- 改修工事・備品修理及び購入
 - 送迎車両 修繕

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	68.7%	73.3% (+4.6%)	79.0% (+5.7%)
平均要介護度	2.1	1.9 (▲0.2)	2.1 (+0.2)
単価（人・日）	8,307円	8,153円 (▲154円)	8,235円 (+82円)

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ本郷（特養）【定員：入所-30名 ショート-10名】

グループホーム本郷【定員：18名】

高齢者事業

ヴィラ本郷（特養）【定員：入所-30名 ショート-10名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 事業収益としては2023年度と比較してわずかに増収となったが、事業費用には大きく届いておらず、マイナス実績となった。
 - 新規加算の算定により入所単価は大きく上昇している。
 - 平均要介護度の低下があり、ショート単価は伸び悩んだ。
 - 稼働率
 - 入所・ショートの合算では、前年度とほぼ横並びとなった。
 - 入所は前年度に比べ3.3%の上昇があったが、目標に達することはできなかった。ショートは前半期の落ち込みが影響し、前年度7.8%のマイナスとなっている。
 - 退所者数に対して入所待機者数が追いつかず、空床となることがあった。また待機者不足により、ロングショートから入所に移行するケースが多く、ショート稼働が安定しづらい状況が続いた。
 - 年度初めに事務員の退職、7月頭にケアマネ（副施設長）の離脱があった。事務業務を施設長と相談員のみで回す状況となり相談業務が圧迫、稼働率に大きな影響が出た。
 - 4月・6月・12月と感染症の蔓延があり、短期入所の稼働に少なからず影響が出た。ただし直近では看護師の指導により感染症対策も定着し、稼働低下を抑えることができてきている。
 - 収支改善
 - 収支等の経営状況および理念について職員等への共有を進め、施設全体の意識向上に繋がっている。
 - 看護部および栄養部の体制が安定し、看護体制加算、栄養マネジメント強化加算の算定を開始した。療養食加算の算定も4名から13名に増加することができた。
 - サービスの質
 - 買い物イベントやドライブなどの外出、保育園児や各団体に施設訪問していただくなど、外部に触れ合う機会を増やすことができた。
 - 協力医療機関との連携会議を定期開催、情報共有を進め連携強化および円滑な入院体制の確保に努めた。また新型コロナウイルス感染症や新興感染症発生時の対応等を会議にて相互検討し、指針やフローチャートに盛り込むことで緊急時の備えとした。
 - 他施設・病院と連携し食事の質について検討している。ご利用者からの意

見も取り入れ、満足度も向上した。

- 栄養部と介護部で協力し、おやつイベントの定期開催を実施した。

○ 人材の確保、育成

- トレーナー候補2名を中心とし、施設内での介護技術研修も定期実施するなど、介護技術の向上を進めることができた。
- オンライン研修により職員の知識・意識向上を推進した。
- 前年度は職員不足により厨房業務継続が困難な状況となったが、新たに2名の調理員を確保でき、安定した食事提供が行えた。
- 年度初めに事務員およびケアマネが離脱したが、職員の協力もあり双方の職種の人材を確保することができた。

○ 地域貢献活動

- 岩国市公益活動の法人・施設間の連携により、フードバンク岩国の運営および地域への働きかけを行った。
- 近隣の他法人や施設と岩国玖北地域にかかわる課題を解決するため、定期的に話し合いを実施した。

○ 改修工事

- ナースコール設備の更新
- ブラストチャラーの導入

● 主な指標

○ 入所+ショート

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	89.0%	89.6% (+0.6%)	94.5% (+4.9%)

○ 入所

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	90.1%	93.4% (+3.3%)	96.7% (+3.3%)
平均要介護度	4.0	4.1 (+0.1)	4.1 (±0)
単価（人・日）	12,719円	13,637円 (+918円)	13,700円 (+63円)

○ ショート

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	85.9%	78.1% (▲7.8%)	88.0% (+9.9%)
平均要介護度	2.8	2.4 (▲0.4)	2.4 (±0)
単価（人・日）	11,005円	10,984円 (▲21円)	11,108円 (+124円)

グループホーム本郷【定員：18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 前年度比微増ではあるがほぼ同水準。
 - 稼働率、単価ともに変わりが無かった。
 - 稼働率
 - 前年とほぼ同じに留まった。
 - 入院等による退居を以前より迅速に判断しているが、新規の入居者の決定から入居日までに時間がかかる事が多くあり、稼働率の改善につながらなかった。
 - 収支改善
 - 月々の収支をある程度職員に共有し、稼働率、人件費、事業利益（損益）の現状認識を強く持ってもらうこととした。意識変化は見られるが、数字としてはまだ効果が出ていない。
 - サービスの質
 - 現場での人員配置を柔軟に変更できるようにすることで、必要な時間に必要な人員を配置しやすい体制にした。これにより人員を効率的に活用し、人員を増やすことなくご利用者の活動量の増加につなげている。
 - 人材の確保、育成
 - 別施設の退職希望者を当施設で受け入れ、それに伴う人事異動を実施を行い人材流出防止を図っている。
 - 地域貢献活動
 - 地域の各種会議に参加
 - 地域の清掃活動に参加
 - 地域の中学校への出前授業実施
 - 改修工事
 - 排煙装置の不具合修理
 - 井戸ポンプ修理
 - その他
 - 施設内でのコロナ感染が初めて発生し1つのユニットご利用者全員が感染したが入院等なし。職員への感染も1名だけと最小限で済み無事に乗り越えた。
- 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	95.8%	95.9% (+0.1%)	97.6% (+1.7%)
平均要介護度	2.6	2.4 (▲0.2)	2.4 (±0)
単価（人・日）	11,969円	12,028円 (+59円)	12,041円 (+13円)

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ都筑（特養）【定員：入所-110名 ショート-10名】

高齢者事業

ヴィラ都筑（特養）【定員：入所-110名 ショート-10名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 本入所
 - 平均稼働率は下がったが、加算算定により介護収益が増加したこと、また食費を値上げしたことにより収益があがった。単価は464円増加した。
 - ショート
 - 平均介護度は0.2下がったが、食費の値上げと処遇改善加算の見直しにより収益を増加することができ、211円あがった。
 - 稼働率
 - 2024.12月～2025.1月にコロナによるクラスターが発生。その影響により10名の利用者が入院し、稼働に大きく影響を受ける。（稼働が回復するまで2か月ほどかかる）
 - 新規入所日・退院日について現場の理解を深め、出来る限りどの日程でも受け入れる体制をつくった。
 - ショートの稼働は病院・事業所に積極的に声をかけ、FAX営業、訪問営業の件数を増やすと共に、営業地域を拡大させたことで前年度比8.2%増となった。
 - 収支改善
 - 本入所の待機者獲得を最優先とし、ショートステイでの受入れを実施すると共に、病院との連携調整を強化した。
 - 医療対応の必要な利用者の受け入れ維持により医療対応促進助成金の申請を継続した。
 - 物価高騰とエネルギー費高騰により支出が増えたが、節電と節約を行うことで補填に努めた。
 - 看護課の業務の見直しを行い、残業時間の減少に努めた。
 - サービスの質
 - 排泄介助の知識・技術向上のため、月1回外部講師からレクチャーを受けることで、適切な介助方法・使用物品の見直しができた。
 - 施設の土地である竹藪に数年前から様々な物が不法投棄されたいいた。その物品を全て撤去することで、竹林の見た目が大きく変わり、近隣住民から

も良い評判をいただく。

- 介護サービスの質の評価とLIFEのフィードバックを活用し施設利用者の傾向を認知し多職種連携の強化と協働した。
- クラスタ発生を経験し、職員の再教育と感染予防策の徹底実施を行い、安心・安全の生活環境のサービス提供を実践した。
- 委員会活動の見直しを行い、入浴・排泄介助の勉強会を開始しスタッフの知識・技術の向上に努めた。
- 生き物と共に生活する環境の提供を目的とし、施設ドッグとのふれあい、メダカの育成、ビオトープの導入、園芸活動の提供にてレクリエーションの強化を実践した。

○ 人材の確保、育成

- 新卒者を入社させる活動として係長・主任と共に学校営業を行う。
 - 営業地域：東京・埼玉・千葉・茨木・群馬県 計23校
- 3年連続、新卒者の獲得することができ、職員の若返り図ることができている。
 - フォローアップとして定期的にリーダー・主任にて面談を実施。
 - 介護技術研修に関して入職した職員を優先に参加し介助方法を統一を図る。
- 今年度、2名の職員がユニットリーダー研修を受講終了しユニットケアの理解を深め、同じ考えの元、業務を進めることができた。
- 技能実習生2名の内、1名が介護福祉士の試験を合格、来年度より介護福祉士として現場で業務を行う。もう1名は来年度試験に合格できるよう現場スタッフ共に語学力のフォローに努める。
- 介護認知症研修、ユニットリーダー研修を修了し職員教育の強化が出来た。

○ 地域貢献活動

- 横浜市開催（花火大会）イベント終了後のクリーンアップ活動への参加
- 市営勝田団地自治会の定例会に参加し、介護サービスの案内、住民情報共有を実施した。
- 施設にて近隣の施設長・役職者を呼び消防訓練（消火器・屋内散水栓を使用）を実施し協力連携を強化に努めた。

○ 改修工事

- ダイキン 室外機1台 室内機10機（入替）
- 機械浴1台 ※カトレア→アラエル（入替）
- 非常照明器具（交換）

● 主な指標

○ 入所+ショート

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	96.7%	96.4%（▲0.3%）	97.2%（+0.8%）

○ 入所

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	98.2%	97.2%（▲1.0%）	98.0%（+0.8%）
平均要介護度	3.8	3.7（▲0.1）	3.7（±0）
単価（人・日）	15,207円	15,671円(+464円)	15,740円(+69円)

○ ショート

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	79.3%	87.5%（+8.2）	88.2%（+0.7%）
平均要介護度	3.2	3.0（▲0.2）	3.1（+0.1）
単価（人・日）	15,312円	15,523円（+211円）	15,812円（+289円）

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ町田（特養）【定員：入所-200名 ショート-20名】

平成デイサービスセンター町田（通所介護）【定員：22名】

高齢者事業

ヴィラ町田（特養）【定員：入所-200名 ショート-20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 本入所
 - 2024年度は食費の変更と8月より特定入所者介護サービス費用の増加もあり一人当たりの単価は増加した。
 - ショートステイ
 - 積極的な営業を行ったことで、毎月の稼働率は一定維持することができた。
 - 稼働率
 - 本入所
 - 目標を下回ってしまった要因としては病院からの新規入所者が多かったが、入所してから数日で病院へ再入院など、体調面が不安定であった方がかなり多かった。
 - ショートステイ
 - 空床状況を居宅、病院、老健などに月2回のFAXを継続し定着してきたため緊急の利用やロングの獲得に繋がった。また特養の空床を利用し、ショートの稼働率を上げることができた。
 - 収支改善
 - 入所の空床利用の活用
 - 本入所は待機者の確保とショートステイの入所待機者を増やせるよう努力したが目標達成に届かなかった。
 - ショートステイは緊急受け入れを積極的に実施した。
 - 光熱水費の高騰の影響があったが東京都との支援事業として介護サービス物価高騰緊急対策支援金を活用することができた。
 - サービスの質
 - 外出行事、ボランティアの受け入れを開始し、近隣の大学生のボランティア、ピアノ演奏、和太鼓演奏など喜ばれた。
 - グループ理念に基づき、利用者様に寄り添い、希望を受け入れられる余裕のある介護、環境整備に務めた。
 - 毎月1回実施しているヴィラ町喫茶はとても好評で、利用者様とご家族様が一緒に利用でき大変喜ばれている。
 - 人材の確保、育成
 - 外国人雇用、職員紹介、紹介会社等を活用し、人材不足解消に努めた。
 - 二葉栄養専門学校より2名の実習生の受け入れを行った。

- 介護課のマネージャー、トレーナー2名が入職者の教育、指導、研修の実施技術面の評価ができるようになり、教育の充実が図れた。
- 全職員対象で高齢者虐待防止研修を1年間を通じて実施した。
- 地域貢献活動
 - 月1回第一火曜日（武蔵丘団地）、3週間に一度金曜日（丸山団地）地域支え合い活動として近隣の団地の高齢者の買い物ツアーの送迎を実施。
 - 地域交流事業である毎月第一日曜日に実施している相原駅前朝一マーケットに参加。
 - 法政大学の福祉活動ボランティアの受け入れ
- 改修工事及び備品購入
 - エコキュート修理
 - 3階機械浴槽PAO譲渡により浴室工事
 - ブラストチラー導入
 - LED工事

● 主な指標

○ 入所+ショート

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	97.8%	96.6%（▲1.2%）	98.6%（+2.0%）

○ 入所

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	98.2%	97.0%（▲1.2%）	98.6%（+1.6%）
平均要介護度	3.6	3.6（±0）	3.6（±0）
単価（人・日）	14,634円	15,216円（+582円）	15,268円（+52円）

○ ショート

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	93.9%	93.5%（▲0.4%）	98.8%（+5.3%）
平均要介護度	3.0	2.9（▲0.1）	3.2（+0.3）
単価（人・日）	14,501円	14,834円（+333円）	15,361円（+527円）

平成デイサービスセンター町田（通所介護）【定員：22名】

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益

- 定員22名に変更し利用者の定着により安定した収益が得られた。

- 稼働率

- 2024年9月より新規利用者が増え稼働率も徐々に上がってきた。
 - 急な休みも少なく、目標としている利用人数に達することができた。

- 収支改善

- 個別機能訓練加算の算定が安定してきた。

- サービスの質

- 利用者様に好評な食事レクリエーションを実施。また管理栄養士による炊飯器で簡単に出来る料理を利用者様と実践し、大変好評だった。
 - 外食レクの実施。

- 人材の確保、育成

- 入職者は介護技術研修に参加。座学及び実技の実施。
 - Webでの研修の参加

- 地域貢献活動

- 近隣の高齢者の買い物ツアーの送迎を行った。（地域支え合い活動）
 - 近隣の大学生の福祉活動ボランティアの受け入れを行った。

- 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	90.0%	82.6%（▲7.4%）	85.2%（+2.6%）
平均要介護度	2.2	2.1（▲0.1）	2.1（±0）
単価（人・日）	9,559円	9,724円（+165円）	9,969円（+245円）

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ神奈川（特養）【定員：入所-140名 ショート-20名】

平成デイサービスセンター神奈川（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ神奈川（特養）【定員：入所-140名 ショート-20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 特養・ショーステイ共に8月から食費を値上げしたことにより、増収となった。
 - 新規加算として、協力医療機関連携加算(Ⅰ)、高齢者施設等感染対策向上加算(Ⅰ)、看取り介護加算(Ⅰ)の算定を開始、介護職員の処遇改善加算の見直しがあり、平均利用単価が増えた。
 - 稼働率
 - 特養は、ご入居者様の体調不良に伴う入院やご逝去等の退所件数が減り、入所待機者が複数名いる状態を維持できたため、稼働率が向上した。
 - ショーステイは、キャンセル対策に努め、昨年より稼働率が向上した。
 - 収支改善
 - 稼働率の維持・向上に重点を置いた。
 - 物価高騰・水道光熱費の高騰に対し、横浜市の物価高騰対策支援を受け、施設内においても節電・節水の啓発を行った。
 - サービスの質
 - 看取り介護の開始。
 - 看取りに対する理解を深めるため、導入前の研修を段階的に複数回に分けて実施。医師、看護師等を講師に招き、施設の目指す看取りのかたちを職員と共有。
 - 利用者家族が泊まれるよう環境の整備や家族を交えた食事会等のレクリエーションを実施。
 - 屋外への外出イベントの実施。
 - 人材の確保、育成
 - オンライン研修を含め、各種研修に参加した。
 - 施設内の勉強会では、グループワーク等の参加型研修を中心に実施した。
 - スポーツ・レジャー等を通して、職員交流を図った。
 - 地域貢献活動
 - 地域の社会福祉施設幹事会に出席し、社会福祉協議会主導の近隣団地の高齢者買い物支援の計画・運用(送迎)を行った。

- 調理師専門学校の実習受け入れを行った。
- 改修工事
 - 給湯器の入替工事(エコキュートからプロパン給湯器へ)
 - 機械浴槽の入替工事(椅子浴1台を小型寝台浴へ)
 - 消防点検時の不備箇所（非常用照明）
 - 空調・洗面台修理等
- 主な指標
 - 入所+ショート ※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	96.5%	97.9% (+1.4%)	98.0% (+0.1%)

○ 入所

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	98.1%	98.9% (+0.8%)	99.0% (+0.1%)
平均要介護度	4.0	3.9 (▲0.1)	3.9 (±0)
単価（人・日）	14,913円	15,439円 (+526円)	15,463円 (+24円)

○ ショート

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	85.1%	91.1% (+6.0%)	91.0% (▲0.1%)
平均要介護度	2.7	2.9 (+0.2)	2.8 (▲0.1)
単価（人・日）	14,631円	14,924円 (+293円)	15,228円 (+304円)

平成デイサービスセンター神奈川（通所介護）【定員：20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 介護職員の処遇改善加算が6月から見直され平均利用単価が増加したが、通所介護相当サービスの運動器機能向上加算の包括化に伴う利用単価の減少、給湯器の故障による入浴中止の影響で減収となった。
 - 稼働率
 - 給湯器の故障により利用者が減少、新規利用者は増えたが、体調不

良による入院者もあり、稼働率が低下した。

- 営業手段として、近隣の団地を中心としたポスティングを実施。
複数名が契約に繋がり、2月3月の稼働率向上に寄与した。

■ 収支改善

- 物価高騰・水道光熱費の高騰に対し、横浜市の物価高騰対策支援を受け、施設内においても節電・節水の啓発を行った。
- 業務内容の見直しを図り、残業代削減に取り組んだ。

○ 人材の確保、育成

- オンライン研修を中心に研修に参加した。

○ サービスの質

- 自立支援の取り組みを開始、能動的に動ける仕組みづくりを行った。
- 他事業所の見学で得た知見を活かし、自施設の業務改善を図った。

○ 地域貢献活動

- 地域の社会福祉施設幹事会に出席し、社会福祉協議会主導の近隣団地の高齢者買い物支援の計画・運用(送迎)を行った。

● 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	76.9%	64.9% (▲12.0%)	80.0% (+15.1%)
平均要介護度	2.0	1.9 (▲0.1)	1.9 (±0)
単価 (人・日)	9,564円	9,413円 (▲151円)	9,835円 (+422円)

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム板橋（特養）【定員：ユニット-140名 従来型-60名 ショート-20名】

グループホーム板橋【定員：18名】

ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）【定員：一般-20名】

その他事業

大谷口地域包括センター（地域包括）

高齢者事業

ケアホーム板橋（特養）【定員：ユニット-140名 従来型-60名 ショート-20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 本入所
 - 退院調整や新規入所の流れを作ることができ、入所コントロールが円滑に回るようになってきた。
 - 入院が多く空床への対応に追われてしまい、待機者を増やすことが難しかった。
 - ショートステイ
 - 新規問い合わせに対し、迅速に対応することで利用者獲得を積極敵に出来た。
 - ロングショートの獲得を目指していたが、需要がなく獲得に苦戦した。
 - 稼働率
 - 本入所は目標の（ユニット）97.2%に対して94.3%、前年度実績が94.2%となっており、目標値に達成できてないが、前年度実績を超えることが出来た。（従来）100%に対して94.5%の稼働。前年度実績97.7%と、目標、実績共に下回ってしまった。空所後の受け入れ体制や面談調整がスムーズに行えていなかった事が原因と思われる。
 - ショートステイは目標88.4%に対して88.5%の稼働。前年度実績が83.1%となっており、事業計画、実績共に上回る事が出来た。入退所調整や送迎の工夫を行い前年度より稼働を伸ばすことに繋がった。
 - 収支改善
 - ショートを利用しながら入所待機待ちをされている方について、スムーズに本入所への切り替えを行うことで、空床を減らし減収を防いだ。
 - 問い合わせに対し、お待たせすることのないよう必ず対応出来るようにした。
 - 生活相談員の業務内容の整理を行い、担当者が不在でも対応出来る体制作りを行う必要がある。

- サービスの質
 - 個々の技術面のみならずチームとしてのサービス提供体制を確立し、施設全体でのイベント企画などを行った。
 - 動物介在活動によるサービスの質の向上
 - ケアホーム板橋に居る常駐犬(スタッフ犬)による動物介在活動による癒しと日常生活の生きがいを提供している。
- 人材の確保、育成
 - 研修の実施
 - 介護技術研修や災害訓練など、実践に即した体験型研修の実施
 - 外部研修への積極的WEBによる参加と資格取得の支援
 - 無資格者への認知症基礎研修の受講を推進
 - 介護職員の喀痰吸引等研修の受講を実施
 - 役職者のユマニチュード研修受講を実施
- 地域貢献活動
 - 地域貢献活動の充実
 - 2自治会が主催するお祭りへの参加を積極的に行い協力体制を築けた。
 - 自治会が主催する防災訓練へ参加。
 - 地域のバザーへのヘルプにも積極的に参加。
 - ケアホーム板橋が主催する地域交流型イベント「ケア板ふれあいフェスティバル」を開催し、職員と利用者が地域の方々とふれあうきっかけとなった。
- 改修工事
 - 特になし
- 主な指標

○ 入所+ショート（ユニット型）

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	92.8%	93.6% (+0.8%)	96.9% (+3.3%)

○ 入所（ユニット型）

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	94.2%	94.3% (+0.1%)	97.5% (+3.2%)
平均要介護度	3.9	4.1 (+0.2)	4.2 (+0.1)
単価（人・日）	15,306円	16,103円 (+797円)	16,193円 (+90円)

- 入所（空床型ショート含む）（従来型）

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	97.7%	94.5%（▲3.2%）	99.1%（+4.6%）
平均要介護度	3.9	3.8（▲0.1）	3.9（+0.1）
単価（人・日）	12,912円	13,456円（+544円）	13,523円（+67円）

- ショート（ユニット型）

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	83.1%	88.5%（+5.4%）	93.0%（+4.5%）
平均要介護度	3.0	2.8（▲0.2）	2.9（+0.1）
単価（人・日）	15,787円	16,023円（+236円）	16,252円（+229円）

グループホーム板橋【定員：18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 平均要介護度増加により、前年比でわずかに増収
 - 稼働率
 - 前年度目標が100%に対し、稼働率は90.8%と前年度より9.2%減少した。前年度実績97.4%に対しても大きく下回った。
 - 収支改善
 - 空所から入所までの期間が大きく空いてしまった事や、契約調整などがスムーズに行えていなかった事が大きな要因と思われる。
 - 数少ない看取りが出来るグループホームとして地域には大きく信頼をおいて頂いている為、長期間事業所を変えることなく最後まで過ごして頂けた。
 - 地域近隣施設との繋がりを行う事で、入居に結びついた。
 - サービスの質
 - 複合施設としての強みを生かし全体での行事や運営を行った。
 - マンネリ化にならないよう、週1回の企画を実施し、日常の活性化を行えた。

- 人材の確保、育成
 - 認知症スペシャリストの養成
 - 東京都企画の研修への参加
 - 地域密着連絡会主催研修への参加
- 地域貢献活動
 - 特養に準ずる
- 主な指標 ※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	97.4%	90.8% (▲6.6%)	98.0% (+7.2%)
平均要介護度	3.0	2.9 (▲0.1)	2.9 (±0)
単価 (人・日)	14,915円	15,044円 (+129円)	15,175円 (+131円)

ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）【定員：一般-20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 退所後のリカバリーが若干遅かったことと、入院者が出たことで全体の収益は減収した。
 - 稼働率
 - 前年度目標が99.6%に対し、年間の稼働実績は93.7%となった。前年度実績が92.7%となっており、目標には達していないが、前年度実績にはわずかだが上回る事が出来た。目標値に達せなかったのは退所後からの動きがスムーズに行えておらず稼働率減少に繋がった。
 - 収支改善
 - 空床発生に備え、常時4件の待機に努めたが、退所後の待機者獲得に苦労した。後半は福祉事務所・居宅への営業で徐々に回復した。
 - サービスの質
 - 趣味の充実を図る
 - 映画鑑賞会、食レクを実施した。
 - 毎朝、座っての体操を実施しコミュニケーションの場を作った。
 - 地域との関わり合い、地域のイベントへの積極的参加を促した。
 - 人材の確保、育成
 - 特養に準ずる。

- 地域貢献活動
 - 特養に準ずる。
- 主な指標
 - 一般 ※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	92.7%	93.7% (+1.0%)	100.0% (+6.3%)
単価（人・日）	7,951円	7,334円 (▲617円)	7,663円 (+329円)

その他事業

大谷口地域包括センター（地域包括）

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 前年度目標数が3,660名に対し、今年度実績が3,625名となっています。前年度実績が3,453名と、目標値には届かなかったが、前年度実績を上回る事が出来た。
 - 職員の配置や役割分担の調整により、前年度より安定した運営が行えた。
 - 収支改善
 - 業務の効率化の実施。人員の配置維持と3職種の確保を続ける。
 - サービスの質
 - 近隣住民や居宅事業所との連携。緊急時の速やかな対応と緊急避難的入所の対応。
 - 人材の確保、育成
 - 包括の事業を理解し、包括の全職員が対応できるように、区主催の研修に参加
 - 地域貢献活動
 - 老人クラブへの出前出張講座の実施。
 - 小地域ケア会議の実施。
 - 地域主催の防災活動への積極的な参加。
 - 小学校高学年生への高齢者体験・高齢者への理解・声掛け講座。
- 主な指標 ※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
ケアプラン数	3,453名	3,625名 (+172名)	3,652名 (+27名)

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム葛飾（特養）【定員：入所-120名 ショート-18名】

高齢者事業

ケアホーム葛飾（特養）【定員：入所-120名 ショート-18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 本入所は申込者への迅速な対応とショートステイから本入所への積極的な切り替え対応、イベント開催及び外部発信力の強化等により安定した入所待機者の確保に繋げ、収益は前年度比6.5%増となる。
 - ショートステイは積極的な営業活動に注力したが、特に下半期の稼働率の落ち込みにより、収益は前年度比4.9%減となる。
 - 稼働率
 - 本入所は2024年度の目標96.5%に対して実績98.0%と目標達成となる。第4四半期のみ運営体制が不安定となり稼働率を落としたものの、目標に対して+1.5%の結果となる。
 - ショートステイは2024年度の目標96.2%に対し実績92.0%と大幅な未達となる。特に下半期においては、生活相談員の離職等の影響により運営体制が不安定となり、医療依存度の高い利用者や緊急ショートの受入れを積極的に行ったが、目標未達となる。
 - 収支改善
 - 本入所は待機者の確保と入所待機中の方のショートステイでの受入れを促進し、必要に応じて本入所への切り替えを行い稼働率の安定化を図った。
 - ショートステイについては、特に下半期は稼働率の低迷を最小限に止めるべく、迅速な対応及び利用希望に対して原則受入れ方針を貫き、少しでも稼働率の向上に努めた。
 - 東京都の経営支援補助金、物価高騰緊急対策支援金、介護職員宿舎借り上げ支援金の補助金を最大限活用した。
 - サービスの質
 - 既存とは別に新たに協力医療機関契約を結び、また看取り対応についても協力病院の開拓に努め、前年度以上に体制の強化を実現、結果利用者にとっての更なるサービスの質向上に繋がった。
 - 生産性向上委員会、安全衛生委員会等の活動を通じて、介護職員等の労働環境の改善に取り組み、また生活サポーター職をチーム編成、各フロア担当制とし、居室等の清掃やリネン交換を担うことにより介護職員が利用者へ寄り添う時間をできるかぎり確保し、結果QOL向上へ繋がった。
 - 人材の確保、育成
 - SNS等を有効活用し当施設にて働くイメージを分かりやすく発信することに注力、実際に求人応募への反響があり採用に繋がる。
 - 介護職員初任者研修の受講支援制度や実務者研修の自治体助成金の活用、

たんの吸引等の実施のための研修を積極的に行った。

- ハラスメントに関する相談窓口担当の周知だけではなく、外部講師によるメンタルヘルス研修への参加促進等、職員のメンタルヘルス対策を押し進めることにより離職率の低下にも努めた。

○ 地域貢献活動

- 近隣の自治会等の主催するイベント運営への支援、当施設主催の地域向け勉強会の開催等により、良い関係性の醸成に繋がった。
- 葛飾区立綾瀬中学校より3名の職場体験の受入れを行う。

○ その他

- 施設行事委員会を中心に、利用者の日常における楽しみの創出に注力した。イベント企画会社と連携し、施設内にて歌謡歌手のライブを開催、利用者に「推し活」によって日々の生きがいや社会との接点の機会を提供する等、グループ理念に沿った様々なイベント・レクリエーションを行うことにより利用者のQOL改善に繋がった。

● 主な指標

○ 入所+ショート

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	96.4%	97.2% (+0.8%)	98.2% (+1.0%)

○ 入所

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	96.4%	98.0% (+1.6%)	98.6% (+0.6%)
平均要介護度	4.1	4.2 (+0.1)	4.2 (±0)
単価（人・日）	15,416円	15,883円 (+467円)	15,990円 (+107円)

○ ショート

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	96.0%	92.0% (▲4.0%)	95.5% (+3.5%)
平均要介護度	3.3	3.4 (+0.1)	3.4 (±0)
単価（人・日）	15,944円	15,956円 (+12円)	16,410円 (+454円)

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム住吉（特養）【定員：入所-100名 ショート-20名】

高齢者事業

ケアホーム住吉（特養）【定員：入所-100名 ショート-20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 開設4年目を迎え、入所及びショートステイを合わせた稼働率が前年度より0.5%の稼働率低下となり、2024年度は黒字化を達成できなかった。
 - ショートステイは、特養の利用者を空床利用や新規利用者様の獲得に苦戦した時期があったため収益に大きな影響が出た。
 - 稼働率
 - 本入所は目標99.4%に対して実績100.5%であった。入院や年末から1月末にかけて体調不良者による入院や看取りの方のご逝去が続いたが、新規入所の受け入れやショートステイから入所への切り替えにより稼働率を維持・改善することができた。
 - ショートステイは目標81%に対し実績74.8%であった。特養の利用者の空床受け入れや入所への切り替えを実施した。その後の新規受け入れに時間を要したために稼働率が下がってしまった。
 - 収支改善
 - 食費の変更（増額）に伴い収支の改善を図った。
 - 営業等による新規利用者様を獲得した。その後面談、入所までの時間をかけないように対応する事で空床を減らすことで収支の改善を図った。
 - サービスの質
 - 看取り介護を充実させるため、施設内研修や協力医療機関との調整等に取り組んだ。その結果、2024年度は15名の利用者様について施設内で看取り介護を行った。利用者様、家族様をはじめ、各部署と会議を重ね利用者様、家族様が望む看取りを実現できるように対応した
 - 毎月 施設内研修を実施し、職員の介護技術や感染対策、接遇面の向上に資するための勉強会を積極的に開催した。また、感染症や防災については実践に即した体験型研修を実施した。
 - 神戸シニアボランティア 4名の受け入れを継続した。週1回程度施設に来ていただき、利用者様の話し相手、レクリエーションの補佐、散歩等を実施することにより利用者様の満足度向上に繋がった
 - 外部業者（阪急百貨店・マイフレンド等）との連携を図り、施設内で様々なイベントを実施することで、利用者様の楽しみづくりを実現した
 - 無資格者への認知症基礎研修を2名受講した
 - 人材の確保、育成
 - 看護、事務、厨房、リハビリ課等の各部署に主任が中心となり、技術・知識・接遇面等の人材育成に取り組んだ。介護主任を配置していたが、2名とも年度末での退職となり、介護体制の再構築を進めている
 - 離職予防のため、OJTプログラムを改善し、入職者との関係を密にすると

もに細やかな指導を行った

- 職員紹介、派遣会社、紹介者等を活用し人材の確保に努めた

○ 地域貢献活動

- 住吉中学校のトライヤルとして、2年生2名を受け入れ、高齢者施設の職場体験を通じ福祉のすそをを広げる活動を実施した
- 渦が森幼稚園の園児40名が来所し交流会を実施した。園児と交流することで利用者様の満足度を高めるとともに、地域に施設を知っていただく機会となった。今回を機に毎年交流をする運びとなった
- 毎月、自治会の清掃活動に参加。地域清掃を実施するとともに地域の自治体との今後の連携等について話を進めた
- 灘のだんじり祭りに協賛した。また、定期的な広報誌の作成やホームページの情報更新に努めた。

○ その他

- 色々な方に施設を知っていただくためにInstagramを開設した。施設を知っていただく、興味を持っていただけるように定期的に施設情報を掲載した。

● 主な指標

○ 入所+ショート

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	96.7%	96.2% (▲0.5%)	98.5% (+2.3%)

○ 入所

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	100.4%	100.5% (+0.1%)	100.0% (▲0.5%)
平均要介護度	3.7	3.6 (▲0.1)	3.6 (±0)
単価 (人・日)	14,884円	15,496円 (+612円)	15,632円 (+136円)

○ ショート

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	78.1%	74.8% (▲3.3%)	90.9% (+16.1%)
平均要介護度	3.4	3.4 (±0)	3.6 (+0.2)
単価 (人・日)	15,117円	15,682円 (+565円)	15,884円 (+202円)

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム渭北【定員：18名】

平成デイサービスセンター渭北（通所介護）【定員：23名】

高齢者事業

グループホーム渭北【定員：18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 要介護度が微増し、栄養管理体制加算を年間を通して算定できたことにより単価及び年間収益は微増した。
 - 改定に伴い基本報酬及び各種加算の単位が引き上げられたことにより微増した。
 - 居室代及び食費の価格を引き上げたことにより微増した。
 - 稼働率
 - 年間を通して入退居はあり、退居後の新規受け入れに協力機関との連携や関わりのある病院や居宅等から紹介をいただく事があり、前年度より空床の期間を短縮でき、微増した。
 - 収支改善
 - 算定可能な加算を取りこぼしなく算定するよう努めた。
 - 業務の見直しを行い無駄を無くすよう努めた。
 - 年間を通して節電に努めた。
 - サービスの質
 - 面会の制限を緩和し、感染対策を行った上で直接会う機会を継続して持つことができた。
 - 家族会を開催し、一緒に昼食を食べたり、意見交換を行う場を持った。
 - 季節ごとの行事で外出支援を多く取り入れ、ご利用者様をはじめご家族様にも喜んでいただけた。
 - 協力医療機関との連携会議を行い、新興感染症発生時や緊急時等の対応について連携構築を図った。
 - 人材の確保、育成
 - 施設外勉強会へのzoomでの研修への参加や施設内での勉強会やe-ラーニングの活用により知識の習得に努めた。
 - キャリアアップに向けた研修の受講。
 - 経験豊富な職員が若手職員をサポートする事で実践的な知識やスキルを伝える事ができた。
 - 地域貢献活動
 - 地域交流
 - 渭北地区の新年互礼会や納涼祭、地区の会議への参加
 - 地域こども園とのお手紙や作品の交換、また対面での交流
 - グループホーム入居者様の作品の展示(渭北コミセン) や地域との交

流の継続

○ 改修工事

- 202号室壁面修理
- 204号室トイレ交換
- 排水ポンプ修理
- 309号室トイレドア修理
- 309号室西側壁面修理
- 非常用発電機ラジエーター水ホース修理
- 施設屋上防水修理
- 空調機修理作業
- 2F IHコンロ交換
- 2F トイレ交換
- 3F 洗濯室引戸修理
- エレベーターインターホン交換
- 306号室トイレ交換

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	95.2%	96.1% (+0.9%)	96.5% (+0.4%)
平均要介護度	2.6	2.7 (+0.1)	2.7 (±0)
単価（人・日）	12,569円	13,119円 (+550円)	13,332円 (+213円)

平成デイサービスセンター渭北（通所介護）【定員：23名】

● 事業報告の概要

○ 業績等

■ 収益

- 通所型サービス利用者様は減少したが、要介護新規利用者の増加に伴い要介護比率の増加
- 要介護度が低い新規利用者の増加、更新時のタイミングで介護度が下がる方が例年と比較して増加したことに伴う平均要介護度の微減
- 稼働率4.5%増加に伴う増収
- 改定に伴い基本報酬及び各種加算の単位が引き上げられたことにより微増した。
- 食費の価格を上げたことにより微増した。

■ 稼働率

- 新規利用者を定期的に獲得することができた。
- 年度初めは体調を崩される方が多かったものの、徐々に体調が安定し、長期の休みになる事が少なかった。

- 収支改善
 - キャンセル時の振替や増回の声掛けの継続
 - ADL維持等加算の継続した算定への取り組み
 - 業務の見直しの継続
- サービスの質
 - 機能訓練を目的とした屋外への散策等外出支援の継続
 - 家族会を開催し、一緒に外出したり、意見交換を行う場を持った
 - 運動不足解消のための体操・リハビリの継続
 - 重度利用者（胃ろう・バルーン・ストマ使用）を受け入れる為の研修の実施を行うとともに、積極的に受け入れも行なっている
 - 利用者様の自立支援の定着を図る
- 人材の確保、育成
 - 職員の意識・接遇・技術向上に向けた勉強会（e-ラーニング研修）の継続
 - 職員の意見交換・情報共有の実施（職員会議・書面等）
 - キャリアアップに向けた研修の受講
 - 有給休暇取得がしやすい環境作り
- 地域貢献活動
 - デイ利用者様の作品の展示(渭北コミセン) や介護相談などの地域との交流の継続
 - 渭北地区の新年互礼会や納涼祭、地区の会議への参加
 - 地域こども園とのお手紙や作品の交換、また対面での交流
- 改修工事
 - 浴室LSD折戸修理
- 感染症への対策
 - 消毒・換気の徹底などの環境整備の継続
 - 送迎車の消毒・利用者様受け入れ時の健康状態の観察強化
 - 利用者様・職員の健康管理・体調不良時に休める体制づくり
- 主な指標 ※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	79.4%	83.9% (+4.5%)	89.0% (+5.1%)
平均要介護度	1.6	1.5 (▲0.1)	1.6 (+0.1)
単価（人・日）	8,012円	8,053円 (+41円)	8,105円 (+52円)

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム八万【定員：18名】

八万小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

高齢者事業

グループホーム八万【定員：18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 今年度、体調を崩して入院され、止む無く退居となる方が前年度の倍以上となってしまう、稼働率を下げってしまった。その為、前年度より3.3%も減収となっている。しかし、介護報酬改定により、基本報酬が引き上げになり、加算も新設され、算定可能な加算をとることが出来たので、単価は上がっている。
 - 稼働率
 - 年間を通して体調を崩され入院となる方が多く、その後退居となる方が前年の倍以上となり、前年度の93.6%から90.3%と稼働率3.3%下げってしまった。
 - 収支改善
 - 介護報酬改定により加算が新設され、算定可能な加算を算定している。
 - 協力医療機関との連携を密に取り、入院中の方の状態の確認や退院の時期などを早めに報告を受け対応を行った。
 - 施設全体で節電、節約に努めた。
 - サービスの質
 - 以前のように2ユニット全員での外出は現在も控えているが、ユニットごとに、遠足として植物園やイオン、イベントとしてビッグひな祭りなどの外出の機会を増やし、気分転換して頂けた。
 - 今年も家族会を開催し、家族様と一緒に食事をしたり、ゲームをして楽しんで頂いた。その後、家族様同士の懇談会を設け交流を図って頂けた。
 - 1F中庭ではプランターに色々な花や夏野菜を植えて毎日成長を楽しみに眺められ、夏野菜は収穫して美味しく召し上がって頂いた。
 - 毎日ラジオ体操やリハビリ体操を行った。また理学療法士の指導の下リハビリを行い、ADLの低下予防を行った。
 - 人材の確保、育成
 - 今年度常勤1名異動、常勤2名入職、パート1名退職となった。引き続き、ハローワーク等に募集を行っている。

○ 地域貢献活動

- 町民体育祭が開催されたので参加させて頂き、町内の方との交流も出来た。年2回の清掃は入居者様も一緒に参加し、交流を深めることが出来た。
- 八万地区の民生委員の方が集まる会に参加させて頂き、その後、新しい民生委員の方の運営推進会議参加に繋げることが出来た。
- 災害時の避難場所は継続。

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	93.6%	90.3% (▲3.3%)	97.0% (+6.7%)
平均要介護度	2.7	2.6 (▲0.1)	2.6 (±0)
単価 (人・日)	12,630円	13,070円 (+440円)	13,137円 (+67円)

八万小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

● 事業報告の概要

○ 業績等

■ 収益

- 平均介護度は昨年1.9から1.8になっており、要介護5の方が11月に入院し利用終了となったため介護度が下がった。
稼働率は変わらないが、平均介護度が下がったのと、介護報酬改定で認知症加算が40単位減り、総合マネジメント体制加算も1,000単位から800単位に減った為、1人当たりの単価が214,170円から207,176円に減額となり8.2%減収となっている。

■ 稼働率

- 年間平均は93.1%と前年度と同じで安定した稼働率を保持できた。

■ 収支改善

- 病院の医療連携室、徳島市の地域包括支援センター、地域の居宅などとも連携を取り、紹介には迅速に対応していくことで次の紹介に繋がり、利用者の確保をすることができ稼働率を維持することができたが介護度アップにはつながらず収益が下がり赤字となった。

○ サービスの質

- 管理者、ケアマネジャーが替わったが介護職員の入れ替わりがなく、安定しており、利用者様にも安心して利用していただくことができた。

- 小規模の特徴を生かし、通い・泊り・訪問のサービスをその人それぞれのニーズに合わせて提供することで、必要な援助を提供できており、継続的に利用していただけた。
- 人材の確保・育成
 - 研修や勉強会への参加
 - 小規模内の勉強会で月1回のe-ラーニングを活用している。また各自で前期・後期にe-ラーニングから勉強したい項目を選択してもらい職員のスキルアップに繋げている。
 - 資格取得
 - 認知症介護実践者研修を1名受講した。
- 地域貢献活動
 - 清掃や町内会の定例会などの町内会活動にも積極的に参加し近隣の方との交流を行うことができた。また、町民運動会に参加し準優勝に貢献することができた。文化祭にも利用者様と一緒に参加することができた。
- 改修工事等
 - 町内会で施設の西門に外灯を設置した。

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
登録率	93.1%	93.1% (±0%)	96.5% (+3.4%)
平均要介護度	1.9	1.8 (▲0.1)	1.8 (±0)
単価 (人・月)	214,170円	207,176円 (▲6,994円)	208,125円 (+949円)

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

那賀町鷺敷デイサービスセンター（通所介護）【定員：35名】

高齢者事業

那賀町驚敷デイサービスセンター（通所介護）【定員：35名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 補助金が減ったこともあるが、全体的に1.7%ほど収入が減少
 - 新たに個別機能訓練加算Ⅰ口の算定により個別機能訓練加算の収入は増加
 - 稼働率
 - 支援の利用者数は増加したが、介護で利用回数の多い方がショート・ロングショート・入所・入院の利用者が増え日々の利用者数が減少し70%にはとどかなかった。
 - 体験者数・新規利用者は前年度より増加したが、稼働率増加までには繋がらなかった
 - 収支改善
 - 業務の効率化を図るため、各業務の人員配置の見直し
 - 営業活動や口コミでの利用者確保を実施
 - ミーティングにて備品の使用頻度などの確認・改善
 - 個別機能訓練加算Ⅰイを算定の方に、Ⅰ口も限度額以内で算定可能な方に人員配置で算定可能を理解していただき算定を依頼
 - 加算算定
 - ADL維持加算が今年度は算定不可
 - サービス提供体制強化加算（Ⅰ）22単位引き続き算定
 - 新たに機能訓練加算Ⅰ口算定
 - サービスの質
 - 自立支援への取り組み強化
 - 食事の引き膳、おやつの片付けなど
 - 買い物支援としてセブンイレブンの移動販売車に来てもらい希望者は自由にお買い物をしてもらい、希望者は店頭への買い物へも行くようにした
 - 職員の個々の技術面を活かし全員で利用者目線のサービスの提供
 - 利用者のやってみたいことを聞き実現できるように職員で工夫動物とのふれあい、お出かけしたい、花や野菜の栽培。など
 - インスタグラムを通し広報活動をする中で地域との交流が増え、相撲巡業の親方の来所があったり、三番叟や御祈祷等様々なボランティア受け入れにもつながり、レクリエーションの充実を図ることが出来た

- 人材の確保、育成
 - 勉強会や訓練の実施
 - 介護福祉士1名合格
- 地域貢献活動
 - 自立支援ケア会議や地域ケアカンファレンスへ参加し、介護情報発信、介護利用の相談等実施
 - ケアホーム・地域の方、こども園園児と一緒に避難訓練
 - 地域農家さんの生産物販売会の開催
 - 地元高校生の実習受け入れや体育祭への参加
 - 地元高校の「服活（不要になった衣服を回収しイベントや地域の施設で無料で譲渡する活動）」への協力
- 改修工事
 - LED交換工事

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	62.1%	60.8%（▲1.3%）	67.5%（+6.7%）
平均要介護度	1.5	1.5（±0）	1.5（±0）
単価（人・日）	7,917円	7,986円（+69円）	7,872円（▲114円）

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター平田（通所介護）【定員：50名】

平成在宅介護支援センター平田（居宅）

高齢者事業

平成デイサービスセンター平田（通所介護）【定員：50名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 2024年度は4月～1月の間は看護師（機能訓練指導員）が4名で個別機能訓練を実施。2・3月は機能訓練指導員は3名体制となったが、機能訓練指導員の算定時間緩和により年間を通して、個別機能訓練加算（Ⅰ）口のみ算定をし大幅に収益を上げることができた。
昨年度2月より、「モフトレ」を導入し個別機能訓練の訓練内容・計画書作成が少し容易となり算定者を増やせたのも、増収の要因となった。
 - 開設当初より昼食代（おやつ込み）は500円/日を徴収していたが、近年の食材費の物価高騰もあり6月より600円/日に値上げをした。
令和5年度 ¥ 6,726,500/13,453人 令和6年度 ¥ 7,747,300/13,281人
（昨年度比+1,020,800円）
 - 稼働率
 - 平均稼働率91.6%（昨年度比▲0.6%）で、体験利用者は45名/年（昨年度比+4名）、新規利用者は44名/年（昨年度比▲2名）を獲得。
 - 収支改善
 - 大型修繕工事等も少なく、支出減額に繋がった。
 - サービスの質
 - 1階と3階のフロアを使っのサービス提供はゆったりとした空間で過ごしていただき、転倒事故防止に繋がっている
 - 昨年度より「モフトレ」を導入し、個別機能訓練の運動内容をTV画面を見ながらリハビリを実施しており、運動時間を楽しみにされている方が多い
 - 「モフトレ」に加えて、余暇時間をロコチューブやハンドグリップ、階段昇降での歩行訓練を自主的に行ってもらい、転倒しない身体作りをしている
 - 創作活動等、各利用者に選択していただき余暇の時間は退屈しないようにしている
 - 同じテーブル内でカードゲームや将棋等、他者交流を図り、好評を得ている
 - カラオケ機器があるため「デイサービスでカラオケができる」とケアマネージャーやご家族から好評である
 - ウォーターベット型マッサージ器・Dr.メドマー・低周波機器・スチーム足浴の4種類を取り揃えており、リフレクソロジーが充実し好評を得ている
 - 大型TVの設置によりYouTubeを使っの体操や脳トレを実施し、余暇時間の充足を補っている

- 毎月行っている自施設での勉強会には介護・看護の全職員が参加しており、内容を充実させ職員一人一人の質を向上し、施設のレベルアップを図った。
- 人材の確保
 - 6月より非常勤看護師が入職し、常勤職員が1ヶ月ともに業務を一緒に行いながら指導員として相談等も受け、2ヶ月目より常時3名が出勤できる環境を作ったが、1月末にて退職となった。看護師の就業定着が難しく常に募集をしている状況となっている。
- 地域貢献活動
 - 岩国市シルバーハウジング委託業務にて住居者の生活相談を行った。
- 改修工事・設置工事
 - ボイラー定期点検の実施
 - 1階フロア窓のブラインドからロールカーテンへ交換工事
- 主な指標 ※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	92.2%	91.6% (▲0.6%)	91.8% (+0.2%)
平均要介護度	1.7	1.7 (±0)	1.7 (±0)
単価 (人・日)	8,474円	8,830円 (+356円)	8,620円 (▲210円)

平成在宅介護支援センター平田（居宅）

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 前年度よりケアプラン数が45件/年減り減収となった。
特定事業所加算Ⅲは前年度より引き続き算定した。
その他、入院時連携加算、退院退所加算など算定要件を満たす加算については適切に請求を行った。
 - 収支改善
 - 特定事業所加算Ⅲの算定、その他要件を満たす加算を取りこぼすことなく算定できたが、2024年度の介護報酬改定においてケアマネ一人当たりの担当件数の上限引き上げにより新規での依頼件数が減少した事が考えられる。

○ サービスの質

- 週1回の居宅内会議を引き続き行う事で、介護支援専門員のスキルアップにつながった。その他内部研修や外部研修に積極的に参加し多種多様な利用者さまにより良いサービス提供が行われるよう関わりを持つ事ができた。

○ 人材の確保、育成

- 今年度は非常勤ケアマネが6月末で退職、常勤ケアマネが4月、5月に1名ずつ入職している。新人教育に力を入れ研修、勉強会を都度行い、質の高いケアマネジャーの育成を行った。
事例検討会や地域の研修等に参加し専門的知識、技術の向上を図った。

○ 地域貢献活動

- 地域からの相談に応じ、必要に応じて相談援助を行った。

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
ケアプラン数	1,714名	1,669名（▲45名）	1,728名（+59名）
平均要介護度	1.9	1.9（±0）	1.9（±0）
単価（人・月）	14,545円	14,799円（+254円）	14,694円（▲105円）

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター黒磯（通所介護）【定員：35名】

平成ホームヘルパーステーション黒磯（訪問介護）

高齢者事業

平成デイサービスセンター黒磯（通所介護）【定員：35名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 稼働率は微増、収入も微増。
 - 平均要介護度は微増。
 - 実人数の増減は無かったが、新規に繋がっても入院や入所などで増加にならなかった。
 - 食材料費高騰のため、令和6年5月より食費の値上げを行った。
 - 稼働率
 - 定期的に体験・新規の依頼は獲得できていたが、終了者の増加で稼働率の安定に繋がらなかった。
 - 収支改善
 - 節電、節水による経費削減の継続。
 - サービスの質
 - 体験の際は必ず事前訪問を実施し、本人の状態を確認する事でサービスを統一できた。
 - 1人1人の残存能力を活かせる様に支援した。
 - 利用者がデイサービスに来る目的を持ってもらえた。
 - 個人の希望に沿うサービス内容の提案。
 - 家族負担の軽減が図れるよう、居室内からの送迎実施。
 - 自宅で家族が出来るようになって欲しい事をデイサービスで取り組んでもらう。
 - 介護・看護の技術面での向上。
 - ホームページを作成。デイサービスでの取り組み内容をアップし、パンフレットや空き情報にもQRコードを添付。
 - 飾りつけ用の創作活動を行い、季節ごとに張替え。
 - 地域連携ツールに参加し、他サービスとの連携を強化でき、主治医との直接の情報共有も図れ、体調変化時の早期対応の継続。
 - 人材の確保、育成
 - 定期的な研修会を実施し、職員の知識向上や技術向上を行う事ができた。
 - 定期的な業務内容の見直し、業務負担の偏りが無いように変更した。
 - 地域貢献活動
 - 月1回の保育園慰問を継続した。
 - 長期休みに職員の子供との交流。
 - 改修工事
 - 脱衣室のエアコンが故障。天吊り型のエアコン設置。

■ エレベーターの基盤交換。

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	69.4%	69.8% (+0.4%)	87.3% (+17.5%) ※令和7年4月から定員30名
平均要介護度	1.7	1.9 (+0.2)	1.8 (▲0.1)
単価（人・日）	8,364円	8,671円（307円）	8,584円（▲87円）

平成ホームヘルプステーション黒磯（訪問介護）

● 事業報告の概要

○ 業績等

■ 収益

- 前年度に比べ5.3%の減収

■ 利用回数

- 平均利用回数は前年度より5.5%減少

- 利用者の施設入所、入院

■ 収支改善

- 営業と訪問ルートの見直し等で新規依頼の受け入れを確実に行ったが、延べ人数の回復には至らなかった。

○ サービスの質

- 居宅やヘルパー間の連携を密にし、利用者の状況やサービス内容等の情報共有に努め、適切なサービス提供、質の向上を図った。

○ 人材の確保、育成

- 年間の研修計画に沿って、毎月の研修を全員が参加できるよう複数回実施した。

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
延べ人数	4,551名	4,301名 (▲250名)	4,711名 (+410名)
平均要介護度	1.8	1.7 (▲0.1)	2.0 (+0.3)
単価（人・日）	4,199円	4,207円（+8円）	4,148名 (▲59円)

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム鳴門【定員：18名】

平成デイサービスセンター鳴門（通所介護）【定員：25名】

鳴門小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

高齢者事業

グループホーム鳴門【定員：18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 2024年度より新設加算（協力医療機関連携加算・高齢者施設等感染対策向上加算等）の算定により収益増加となった
 - 2024年6月より、新介護職員等処遇改善加算Ⅰの算定により収益が増加した
 - 生活機能向上連携加算算定の増加はできなかったが、継続して実施することができた
 - 稼働率
 - 稼働率は前年度に比べ2.2%増加した
 - 入院や退所があったが、すぐの入所に繋がらず空床が続いたことにより、稼働率94%台が3カ月続いた
 - 前年度の稼働率100%の月が1回に対し、今年度は6回であった
 - 収支改善
 - 業務効率化を進めるため、働きやすい環境への取り組み
 - 備品在庫の把握、無駄がないかの確認・経費削減に努めた
 - 必要に応じて介護度の見直しを検討した
 - サービスの質
 - 入居者様の意見を取り入れて外食や、個別に買い物や寺院参り等の外出支援を行った
 - 家族様との面会時間や外出について、要望があった際に柔軟な対応を行うことができた
 - 人材の確保、育成
 - 業務内容の見直しを実施することにより、職員の負担軽減
 - 勉強会などによる職員の知識、技術向上を行った
 - 働きやすく相談しやすい環境づくりに努めた
 - 地域貢献活動
 - 地域の方と一緒に地蔵盆への参加を行った
 - 地元婦人会の行事で作品作り、普通救命講習への参加、県外への遠足など

の参加を行った

- 介護相談員の訪問で毎月1回1時間程度の交流を継続して行っている
- 鳴門市の作品展に参加をして貼り絵、編み物、書道などを展示することができた
- 鳴門市のボランティア活動が9月より再開になり、月に2回おやつ作りのボランティアの受け入れを行った
- 鳴門市移動図書館の受け入れを再開した

○ 改修工事

- ナースコール取替工事（2024年4月完了）

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	95.6%	97.8%（+2.2%）	98.9%（+1.1%）
平均要介護度	2.4	2.8（+0.4）	2.9（+0.1）
単価（人・日）	12,340円	12,958円（+618円）	13,050円（+92円）

平成デイサービスセンター鳴門（通所介護）【定員：25名】

● 事業報告の概要

○ 業績等

■ 収益

- 稼働率向上により全体収益は前年度比で増加
- 口腔機能向上加算の算定に伴う増収
- 基本報酬及び各種加算の単位数改定により微増
- キャンセル待ちを含め、登録人数の増加
- 食費価格の引き上げにより微増

■ 稼働率

- 12月に新型コロナウイルスの影響により稼働率が81.4%まで低下
- 入院や施設入所が重なり稼働率が伸び悩む期間もあったが、昨年度より年間8.3%上昇
- 居宅からの紹介数も増加し、契約率も上昇

- 収支改善
 - キャンセル時の振替徹底
 - 営業活動の強化、訪問件数の増加
 - 利用時間の見直し、提案
 - 業務見直しの継続
 - SNSを活用した広報活動の継続
- サービスの質
 - 自立支援の取組を強化し、やりがいを感じ生活の質が向上
 - 職員個々の資格や技術を生かし、利用者目線のサービスを提供
 - 重度利用者の受け入れ実施
- 人材の確保、育成
 - 定期的に業務内容を見直し、業務の負担を軽減
 - 職員の意識・接遇・技術向上に向けた勉強会の継続
- 地域貢献活動
 - 教会前駅までの清掃活動
 - 子供たちとの音楽発表会開催
 - 金比羅神社・春日神社の秋祭り参加
 - 地域包括自立支援ケア会議への参加
- 改修工事・備品修理及び購入
 - キュービクル改修工事（2024年11月完了）
- 感染症への対応
 - 自立支援を継続し、手洗い・消毒・換気などの感染対策を徹底
 - 職員、利用者の健康管理と体調不良時の休みの検討

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	81.2%	89.5%（+8.3%）	92.6%（+3.1%）
平均要介護度	2.1	2.0（▲0.1）	2.0（±0）
単価（人・日）	7,906円	8,073円(+167円)	8,074円（+1円）

鳴門小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 登録率、介護度ともに減少したが、サービス提供体制強化加算Ⅱの算定により収益増となった。
 - 稼働率
 - 居宅や病院などから、問い合わせはあったが、紹介、登録に繋がらなかった。
 - 居宅で対応が困難な方や病院から重度な方の受け入れを行ったが、長期的な利用が難しく、稼働率が思うように伸びなかった。
 - 収支改善
 - 利用者様の状態に応じて、こまめに介護度の見直しを行った。
 - 光熱費や物品の使用等について、無駄がないように経費削減に努めた。
 - 退院後、出来るだけ自宅に戻って生活できるよう受け入れ体制を整える等、支援強化に努めた。
 - サービスの質
 - 通所では、外出や季節の行事に加えて、日々楽しく過ごしていただけるようなレクリエーションやイベントの開催など、マンネリ化防止に努めた。引き続き、自宅での生活を継続していただくために利用者様のレベルに応じた生活リハビリや自立支援を行った。
 - 訪問では、利用者様、家族様の要望や状況に応じて、訪問回数を増やすなど、柔軟にサービスを提供することができた。
 - 宿泊については、利用される方に偏りはみられるが、必要な時に利用していただけるよう調整に努めた。
 - 人材の確保、育成
 - 職員の知識、技術向上の為、定期的な勉強会開催や研修への参加を行った。
 - 定期的に業務の見直しを行ったり、相談しやすい雰囲気づくりを行い、働きやすい環境を整えるように努めた。
 - 地域貢献活動
 - 婦人会への参加を行い、地域交流を深めることが出来た。また、コロナの影響で参加できていなかった遠足などの集会所以外での活動への参加を再開することができた。
 - 例年のイベントに加えて、地区の草抜きや自治会などが主催する避難訓練

にも参加することができた。

- 引き続き、運営推進会議や定期的な自宅への訪問により、現状の聞き取り、情報共有などを行い、地区役員の方々と施設との関係性維持に努めた。

- 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
登録率	55.2%	53.4%（▲1.8%）	60.3%（+6.9%）
平均要介護度	2.3	2.2（▲0.1）	2.3（+0.1）
単価（人・月）	191,078円	206,013円（+14,935円）	207,111円（+1,098円）

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター徳島（通所介護）【定員：26名】

メディケアハウス平成（有料老人ホーム）【定員：20名】

高齢者事業

平成デイサービスセンター徳島（通所介護）【定員：26名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 全体の収益は稼働率の向上により前年度比で増加
 - 介護報酬改定に伴う基本報酬の引き上げ及び新設加算の算定により増収
 - 食費の価格引き上げ
 - 稼働率
 - 年度初めは入院や体調不良者が多く、稼働率は下がったものの、新規利用者獲得により徐々に安定。目標の稼働率には届かなかったものの前年度よりも向上
 - 収支改善
 - 営業活動の強化、訪問件数の増加
 - 安定した稼働率の維持の為待機利用者の確保、キャンセル時の振替
 - SNSを使用した広報活動の強化
 - サービスの質
 - レクリエーションやイベントの質、量を改善、満足度の高い介護サービスの提供体制の推進
 - 接遇の意識、技術向上に向け研修会の実施
 - 自立支援の拡充やマシンを使用した機能訓練の充実
 - やりたいことができるを目標に活動を検討
 - 人材の確保、育成
 - 定期的な業務内容の見直しを行い、業務負担の偏りがないように実施
個人個人に役割を与え、責任感の向上
 - キャリアアップに向けた研修、資格取得を支援
 - 風通しのいい職場となるよう意見交換の場や環境づくり実施
 - 地域貢献活動
 - 地域のこども園との交流
 - 文化展に参加、作品の展示
 - 改修工事
 - 送迎車両の購入
 - その他
 - 感染症への対応
 - 環境整備、消毒など感染対策の継続
 - 利用者、職員の健康管理、協力医療機関との連携

- 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	85.3%	89.2% (+3.9%)	93.0% (+3.8%)
平均要介護度	2.0	2.0 (±0)	2.0 (±0)
単価（人・日）	7,881円	7,950円 (+69円)	7,973円 (+23円)

メディケアハウス平成（有料老人ホーム）【定員：20名】

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益

- 稼働率向上に伴い、収益増額
- 8月より家賃・管理費の増額、食費の増額

- 稼働率

- 前年度に比べ入退居の調整がスムーズに行え、稼働率向上

- 収支改善

- 待機者確保のための営業活動強化
- 業務内容の効率化、人件費削減、節電

- サービスの質

- 献立どおりではなく、自分が食べたいものを食べられる日を設定

- 人材の確保、育成

- 話しやすい職場環境づくり
- 研修の実施

- 地域貢献活動

- 地域の文化展への出品

- その他

- 感染症対策

- 環境整備、消毒などの感染対策の継続
- 入居者、職員の健康管理
- 協力医療機関との連携、情報共有

- 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	96.9%	98.4% (+1.5%)	98.9% (+0.5%)
単価（人・日）	2,708円	2,961円 (+253円)	3,432円 (+471円)

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとてと東大阪（訪問看護）

高齢者事業

訪問ステーションてとと東大阪（訪問看護）

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 全体の収益は前年度に比較し増収だが、トータル利益としては減収
 - 原因：
 - 人員増に伴う事業費増に見合う増収が得られず
 - 体制強化及び再構築のため7月に常勤リハビリスタッフ1名、12月と1月に常勤看護師1名、非常勤看護師1名増員するも、増員分の事業費増に見合う新規獲得ができておらず、トータル利益として前年比を下回る結果となった
 - 近隣で競合事業所の新規立ち上げが続く
 - 年度中旬～年度末にかけて同エリアで訪問看護事業所（リハビリスタッフ在籍の事業所）の立ち上げが続いており、案件が分散されている影響あり
 - 稼働率
 - 増員に伴う新規獲得ができておらず年度末にかけて稼働率は低迷し、計画していた目標を下回る
 - 結果
 - 看護：41.6%（目標：45～50%）
 - リハビリ：41.3%（目標：50～55%）
 - 業務効率
 - 効率向上のため、以下項目を実施
 - 管理者を交代
 - 看護体制の改善及び業務システムの再構築を図るために、2024.4月に管理者を交代
 - 訪問スケジュール管理ソフト:ZESTの導入
 - 訪問事業部で今年度より導入
 - 現在訪問事業所で利用中のクラウド型経営支援サービス：カイボケと連動しており、スケジュール管理に要していた時間の大幅短縮が実現
 - 仕組み・ルールを作成
 - スタッフ一人ひとりの『業務』や『時間』に対する考

え方や意識を改革するためにルールを作成

- ルールを作成するだけでなく、全員と面談を実施し、理解度を確認していくとともに、意見を聴取し随時更新

- 結果

- 指示系統が整理でき、業務処理や対応の遅延が改善
- 情報共有の速度を上げるとともに明確化することで連携不足を改善するとともに、ミスの最小限化を図ることができた
- スタッフ間の意見交換が活発になり、多角的視点を持つての対応が可能になった

- 訪問人員

- 看護師数がスタッフ全体の6割以上には至らず

- 看護師常勤換算：5.4名となり、昨年度の課題であった人員不足は解消するも、目標としていた全体の6割以上には至らず

- サービスの質の確保・人材育成 ※昨年度から継続実施内容含む

- 同行訪問・OJTの実施

- 職員同士で同行訪問を実施し意見交換の場を設けることで多角的な視点からアセスメントを実施
- 同行訪問後、同行者による訪問の記録とともに、該当スタッフ同士での協議を必須とする

- 目的

- 訪問看護スタッフとしての気付きを増やす
- スタッフの特性にあわせた教育体制の強化
- 慣れにより怠慢になっている部分や、コメディカルによるバイアスを是正する

- カンファレンス・ケーススタディ・KYTを定期的実施

- カンファレンス（1回/月）

- 問題点の整理とともに、現在のケア内容や目標の確認・検討できる場を設けた

- ケーススタディ（1回/月）

- 様々なケースにおいて、意見を交換することで視野を広げ、現場に活かす取り組みを実施

- KYT：危険予知トレーニング（1回/月）

- 各々が事故を未然に防ぐという意識付けを実施
- 2024年度の事故について

- 看護

- 爪切り時の皮膚損傷（2件）、服薬セットミス（2件）等あったが大きな事故無し
- リハビリ
 - サービス訪問時における転倒・転落事故は0件
- その他、定期以外にも、適宜カンファレンスや実技指導も実施し、知識・技術の底上げを図った
- 職場環境の整備
 - ハード面
 - 更衣室の改装（床材の張替え）
 - スタッフ増員に伴い環境を整備
 - ソフト面
 - 事業所内ルールを明示（随時更新中）
 - 業務を実施するにあたって、てとてと東大阪でのルールを明確にし、スタッフに明示することで、業務に集中できる環境を整えた
 - 「言った」「聞いてない」等、不必要な時間を排除することで業務効率化も図れた
 - 定期的な面談を実施
 - 頻度：半期に1回
 - 目的：スタッフが自分で立案した目標に対する進捗確認及び適宜協議の場にする
 - 定期的なざつだんを実施
 - 頻度：1～2ヶ月に1回
 - 目的：
 - ①業務だけでなく、些細な疑問や不安や不満、必要に応じてプライベートな悩み等も聴取
 - ②スタッフの考えや意見を聴取し、事業所のハード面やソフト面から働きやすい環境にしていく
 - 朝礼の実施方法をひと工夫
 - 司会担当とひとこと担当を各スタッフが順番に担当
 - 各自が司会も体験することでコミュニケーションスキルアップとともに、スタッフの人となりを知る機会にする
- 地域貢献活動
 - 昨年度より布施中学校区の多職種連携事務局に加入し活動中
 - 年度末には研修会を開催

- 校区を越えて医療・介護・福祉事業者にご参加いただき、相互理解を深めるとともに協力して課題を解決していく内容の研修

- 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
延べ人数	16,171名	15,206名（▲965名）	16,166名（+960名）
平均要介護度	2.6	2.6（±0）	2.6（±0）
単価（人・日）	4,323円	4,706円（+383円）	4,728円（+22円）

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとてと徳島（訪問看護）

ケアプランセンター てとてと徳島（居宅介護支援事業所）

高齢者事業

訪問ステーションてとと徳島（訪問看護）

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 全体の収益は前年度と比較し、増収。要因としてスタッフ数の増員による訪問件数の増加、加算取得数の増加、難病利用者様の複数回訪問によるもの。
 - 常勤換算（前年度比）
 - 看護師：±0名、リハ：+1名(中途2名、退職1名)
 - 提供回数（前年度比）
 - 看護：介護保険+346回、医療保険+1151回
 - リハ：介護保険+812回、医療保険+816回
 - 加算取得の増加（前年度比）
 - 緊急時加算：介護保険+49回、医療保険▲1回
 - 特別管理加算：介護保険+42回、医療保険+51回
 - 難病等複数回訪問加算：+531回（医療保険のみの加算）
 - 複数名訪問看護加算：+48回（医療保険のみの加算）
 - 精神科訪問看護のサービス提供開始
 - 提供回数：看護師▲49回 作業療法士▲10回
 - 稼働率
 - 主治医、ケアマネ、他事業所との関係強化、ならびに病院・診療所・居宅介護支援事業所への営業活動が実を結び、安定した訪問依頼が継続的に得られた。
 - 職員の感染症は数名あったが、クラスターには至らず、業務にも大きな支障はなく、稼働率の低下はみられなかった。
 - 収支改善
 - 医療機関、ケアマネへの営業活動、また地域包括支援センターとの連携を強化し、利用者数の増加。
 - スタッフのアイドリング時間を削減することで、訪問件数が増加
 - 看護のみ、リハビリのみではなく複合的なサービスを展開できるように連携し、ケア内容を一体的に管理することでより質の高いサービスを提供。

○ サービスの質

- 重度医療が必要な利用者を積極的に受け入れる体制を構築
 - 重症度の高い症例や介護度の高い利用者、難病やターミナル期の方への対応力を高めるため、年間を通して実施した研修が実践に結びつき、現場での対応力が向上。
 - 特定行為研修者は0名であったが、外部研修などの受講や実技訓練などを実施し、知識や技術を向上することができた。
 - 呼吸認定療法士の資格を生かし、疾患特性に応じたリハビリの個別対応力が向上し、より専門性の高いサービスの提供ができた。
- 定期カンファレンス、症例検討の実施
 - 職員間での情報共有が円滑となり、利用者ごとの課題や支援方針について統一され、ケアの質が均質化し、職員間の連携も強化。
- 業務ストレスや負担の軽減
 - 過剰な業務ストレスの蓄積を防ぐため、個別面談を実施し、業務量やストレスの偏在が明らかにし、スタッフに応じたスケジュール調整等を行った。

○ 人材の確保、育成

- 定期的な教育とフィードバック文化の醸成により、スタッフのモチベーションが向上。ワークライフバランスも改善された。
- 研修の実施
 - eラーニング、クリニカルラダーでの研修により知識の向上が得られた。
 - 症例検討会を継続的に実施し、現場の実情に即した学びの機会を提供することで、スタッフの実践力と知識の底上げを図った。

○ 法人、グループ内の連携

- 博愛記念病院および徳島平成病院との日常的な情報共有と連携体制を強化した結果、退院調整がスムーズに行えるようになり、退院直後から訪問サービスにつなげるケースが前年に比べ大幅に増加。
- 退院前カンファレンスへの参加や早期の訪問介入が実現し、利用者・家族双方の不安の軽減に繋がった。

○ 地域貢献活動

- 地域ケア会議への継続的な参加を通じて、地域高齢者の実情や支援ニーズを的確に把握できるようになり、当ステーションの専門職が個別ケースへの助言や情報提供を行う機会が増加。

○ その他

- 看護体制強化加算の算定は開始できなかったが、リハビリ減算を補うよう

に訪問看護件数を増加できた。

- 感染症および自然災害に備えた業務継続計画（BCP）については、訓練・見直しを計画的に実施し、職員全員が緊急時の役割を把握できる体制が整った。自然災害および感染症対応においては、シミュレーションの研修を行い、緊急時にも訪問を継続できる現実的な対応力を高めることができた。

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
延べ人数	18,486名	21,749名（+3,263名）	25,408名（+3,659名）
平均要介護度	1.6	2.1（+0.5）	2.2（+0.1）
単価（人・日）	5,388円	5,618円（+230円）	5,892円（+274円）

ケアプランセンター てとてと徳島（居宅）

● 事業報告の概要

○ 業績等

■ 収益

- 利用者数はやや減少したが、加算取得数（入院時情報連携、通院時情報連携加算）が増加
- 居宅介護支援に係る基本報酬が微増したことにより、全利用者に対して影響があり、収益が増加

■ 稼働率

- スタッフ1名が介護休暇より復帰し、新規利用者数が増加
- 前年度はスタッフ1名の介護休暇があったが、今年度は介護休暇や感染症による長期休暇などはなく、稼働率は増加

■ 収支改善

- 博愛記念病院、徳島平成病院との連携を強化し、退院後の訪問支援体制を確保
- 会議を定期的に行い、収支・契約件数・利用者数の情報共有と改善策を検討
- 地域包括支援センターとの連携により、要支援から要介護へ移行した利用者の対応体制を確保

- サービスの質
 - 月1回以上の利用者および家族への訪問・連絡を実施
 - 利用者の不安や希望を丁寧に聴取し、柔軟に対応できるケアプランを作成
 - 常に新たな知識の習得に努め、在宅生活の質を向上させる支援を継続
- 人材の確保、育成
 - 研修の実施
 - 実際の支援事例をもとに課題や対応策を共有
 - 疾患別ケース（認知症、ターミナルケア、独居高齢者など）に関する対応力の向上
 - 多職種との連携の取り方や地域資源の活用方法を学ぶ場として活用
 - 職場環境の整備
 - ICT機器の導入による事務作業の効率化
 - 適切な休憩時間の確保
- 法人、グループ内の連携
 - 博愛記念病院・徳島平成病院の看護職員や地域連携室職員と定期的な意見交換・連絡調整を実施
 - 退院前カンファレンスへの参加や、訪問指導が必要な患者情報を速やかに把握できる仕組みを構築
 - 入退院予定者の情報をいち早く共有し、退院後の在宅サービス導入(福祉用具の選定や環境設定なども含む)をスムーズに行う体制を整備
- 地域貢献活動
 - 地域包括支援センターとの連携強化
 - 要支援者が要介護へ移行する際のスムーズな支援引継ぎ
 - 地域で孤立しがちな高齢者のケースに対し、定期的な訪問・モニタリングの実施

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
ケアプラン数	777名	773名（▲4名）	837名（+64名）
平均要介護度	2.1	2.2（+0.1）	2.3（+0.1）
単価（人・月）	12,192円	12,470円（+278円）	12,517円（+47円）

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

障がい者事業

OUCHI CAFE・KITCHEN（就労継続支援B型）【定員：20名】

OUCHI HOME（共同生活援助）【定員：14名】

西新井まちの相談室（特定相談支援事業）

障がい者事業

OUCHI CAFE・KITCHEN（就労継続支援B型）【定員：20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 2024年度は、前年度に要件（6ヵ月の就労継続）に達する就労定着者が2名いたため、就労移行支援体制加算（Ⅰ）を2名分算定することができた。
 - 2023年度と比較して稼働率が増加。報酬改定により平均工賃の算出方法が変更となったことで、就労継続支援B型サービス費（Ⅰ）の「平均工賃月額4万5千円以上：837単位」を算定できることとなった。そのため、前述の就労移行支援体制加算（Ⅰ）2名分と合わせて大幅な増益となった。
 - 稼働率
 - 土曜日の開所日を、原則第1土曜日と第3土曜日に変更。もともと利用者数が極端に少なかった土曜日の開所日を減らしたことで、稼働率が上がった。「土曜日のゆったりした雰囲気がい」「土曜日にもCAFEを開けたい」という利用者の声に応える形で、第1土曜日には「土曜日のOUCHI CAFE」を開催。ランチの提供はせずドリンクやデザート、物販のみの対応としている。
第3土曜日には「みんなでごはん」という地域公益活動を開催。誰でも利用できることを謳い、豚汁とご飯を無料で提供している。
 - 曜日ごとに定員以上の利用者確保しキャンセルから稼働率が低下することに対応。通所が安定しない利用者は変わらず一定数いるが、以前よりも安定して通所できる利用者が増えていることが、稼働率の上昇につながっている。利用者の通所安定化には、職員とのコミュニケーションだけでなく利用者同士のコミュニケーション量の増加も要因として考えられる。
 - 収支改善
 - 平均工賃の算出方法変更によって「就労継続支援B型サービス費（Ⅰ）」が611単位から837単位に上がったことに伴い、「就労移行支援体制加算」も58単位から93単位に上がった。
 - 引き続き、利用者の欠席に対する対応を継続し、欠席時対応加算の適切な算定を行った。
 - CAFE・KITCHENで使う食材の管理や発注を一元化することで無駄

を省き、食材にかかる経費の節減を行った。物価高騰に伴い、使用する材料を可能な限り安価なものに切り替える等の対策も実施した。

○ サービスの質

- 利用者の仕事を15時までに短縮し、15時以降は利用者同士や職員とのコミュニケーションにあてる時間としたことで、これまで以上に利用者同士のコミュニケーションも増え、利用者と職員が話しやすい環境づくりを行うこともできた。
- 利用者の希望によって適宜面談を行い、利用者個々の能力やニーズに合わせた仕事の提供につなげるとともに、就労などのステップアップを目指す利用者には情報提供を行った。また、就労移行支援事業所や就労先など、必要に応じて同行するようにしている。
- 利用者同士のトラブルには迅速に対応し、通所しやすい環境づくりに努めた。
- グループ内のお中元やお歳暮への菓子提供、大内病院デイケアへのデザート提供を継続し、工賃の維持向上を図った。

○ 人材の確保、育成

- 施設内研修や勉強会を定期的に実施。
- 職員との個別面談を実施。日頃の困りごとや目標などの聞き取りを行い、職場環境の改善に努めた。
- CAFEとKITCHENで職員のローテーションを行い、職員同士がお互いの業務を理解し協力し合う環境づくりを実現した。

○ 法人、グループ内の連携

- 大内病院の連絡会議にて、CAFE・KITCHENの稼働や空きの状況、活動内容等について共有。
- 大内病院デイケアへのデザート提供の継続。
- 大内病院に開店した売店「トピア」にて、週1回パンの販売を開始した。
- ココロネ板橋、ココロネ淡路、PALETTEと共同でグループ内へお中元やお歳暮の提供を実施。
- ココロネ板橋で開催された「ココロネ祭り」に参加。焼き菓子などの販売を行った。
- 月1回程度のペースで、ケアホーム葛飾、ケアホーム足立でのパンの出張販売を実施。
- 年3回（7月、11月、3月）、大内病院の高齢者グループホームこもれびの家族会にスペースを提供。家族会後に、食事会を開催。当日は利用者も配膳などを行った。

○ 地域貢献活動

- 「ヴィレッジマルシェ」（5月、12月）。近隣の児童養護施設のマルシェイベントに出店。施設の子どもたちにも店を手伝ってもらった。
- 「くるりPJ」（8月、12月）。1個200円で事前に購入していただき、児童養護施設にOUCHIのパンやデザートをお届けする企画。
- 「多世代交流祭り」（11月）。地域包括支援センター西新井主催の祭りに参加。当日はCAFEを開放してドリンクやアイスなどの提供を行い、地域の方々にOUCHIを知っていただくよい機会となった。利用者もドリンク作りやお客様対応を行いつつ、祭りを楽しんでいた。
- 「みんなでごはん」（毎月第3土曜日）。地域の皆さんのご協力のもと運営する地域公益活動。「多世代型地域食堂」という形で、豚汁とごはん、漬物のセットを無料で20～30食提供。
 - 対象は「誰でもOK」。回を重ねるごとに参加者が増えており、子連れのママさんから高齢者、GH入居者など様々な年代、属性の方々が集まっている。また、参加者から米や味噌、野菜、果物、お菓子などいろいろな「差し入れ」をいただくことも多くなってきており、「互いに支え合う」雰囲気できてきている印象。足立区社協の70周年記念式典にて、感謝状をいただいた。
- 「足立区こころの健康フェスティバル」（3月）。区内の就労継続支援B型事業所、GHなどが一堂に会して販売や発表などを行うイベント。焼き菓子やチョコレートの販売で参加。当日は利用者もブースに立って販売を行い、前年よりも多い売り上げを記録した。

○ 改修工事

- 大規模なものはなし。

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	76.1%	93.1% (+17.0%)	95.0% (+1.9%)
単価（人・日）	9,244円	13,342円 (+4,098円)	12,180円 (▲1,162円)

OUCHI HOME（共同生活援助）【定員：14名】

● 事業報告の概要

○ 業績等

■ 収益

- HOME、かりんともに稼働率は上がったが、かりんの精神障害者地

域移行特別加算が対象期間を終了したことによって減収となり、そのことで全体としても減収となった。

- 報酬改定により、「外部サービス利用型共同生活援助サービス費」が243単位から171単位に下がったが、「人員配置体制加算（ⅩⅢ）」（12：1）73単位の要件を満たしたため算定可能となり、収益に大きな影響はなかった。

■ 稼働率

- かりんは、4月～5月に入院した方がいたがその後は入院者は出ず、結果として稼働率の上昇につながった。
- かりんは、1名退居で1名入居。HOMEからの転居。
- HOMEは男女とも1名ずつ退居。その後、女性2名、男性3名が入居し、満床となったことで稼働率が上昇した。
- 大内病院との情報共有や地域の特定相談支援事業所への空室状況の共有等を行い、退居から次の方の入居までの期間を短くすることで稼働率の低下を防ぐよう努めた。

■ 収支改善

- 特定相談支援事業所や保健センターなどへの空室状況の連絡等を継続的に行うとともに、大内病院の病棟PSWにも密に連絡を行い、待機者の確保を図った。
- 入院時支援特別加算の算定や退居による空室発生時の空室補償など、適切な加算算定等を行うことで、減収を抑えた。

○ サービスの質

- 週1回のスタッフミーティングで入居者の現状を共有し、支援内容等についての検討を行った。
- 日頃のコミュニケーションや入居者への定期的な面談を通して個々のニーズを聞き取り、それぞれの入居者に合わせた生活支援の提供を心がけた。
- 月1回の食事会で、配食や弁当などが多い入居者に手作りの食事を提供。
- 施設内の環境整備、季節ごとの飾り物などを積極的に進め、入居者にとって心地よい環境作りに努めた。
- 現入居者のみではなく退居した元入居者も含めた「秋祭り」を開催。利用者同士のコミュニケーションの場を設けることで、退居後の生活をイメージしてもらったり、退居者の現況を把握することができた。

○ 人材の確保、育成

- 施設内研修や勉強会を定期的に実施。
- 外部研修への積極的な参加。
- 職員に対する個別の面談を行い、日々の業務や入居者への支援などでの困

りごとに対応。

- 法人、グループ内の連携
 - 大内病院の連絡会議にて、HOME・かりんの稼働状況等について共有。
 - OUCHI CAFE・KITCHENで行っている交流会への参加。グループホーム入居者同士のみならず、就労継続支援B型利用者との交流の場となった。
 - 大内病院の訪問看護部門（精神科訪問看護、ACT）と月1回の定期ミーティングを行い、情報共有や支援方針の確認を行った。
- 地域貢献活動
 - OUCHI CAFEで開催される「みんなでごはん」に、HOME・かりんからも参加。老若男女入り混じって食事をしている中に、HOME・かりんの入居者も自然に参加することで、お互いになんとか存在を知っている、「ゆるやかな地域のつながり」を実現。1年間通して参加したことで、入居者としても「みんなでごはん」が定着した印象がある。
 - 町会への参加により、地域に根差した施設であることを地域住民の皆様に理解していただいた。
- 改修工事
 - かりん玄関扉交換
 - かりん漏水に伴う屋根修繕
 - HOME女性側ユニット漏水に伴う修繕
 - HOME玄関錠シリンダー交換

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
稼働率	87.8%	91.6%（+3.8%）	100.0%（+8.4%）
単価（人・日）	7,588円	7,307円（▲281円）	7,550円（+243円）

西新井まちの相談室（特定相談支援事業）

● 事業報告の概要

○ 業績等

- 収益・稼働率
 - 2023年6月に開設して初年度は登録者数60名、今年度は100名に達し、月の平均モニタリング数も33.9名と増加した。しかし、利用者ごとの年間モニタリング既定数が少なかったため目標としていた月のモニタリング数を超えることができなかった。
- 収支改善

- 担当する利用が増えることで関係機関も広がり、多くの新規の相談を受けることができた。
- 利用受け入れを足立区在住者だけでなく近隣区在住で足立区内の福祉サービス利用者にも範囲を拡大し新規利用者の獲得に努めた。
- サービスの質
 - 関係機関と連絡を取り合い利用者の状態の把握と共有に努めた。
 - 利用者や事業所からの相談で必要に応じて担当者会議などを設定して問題解決に努めた。
- 人材の確保、育成
 - 外部の研修会などに積極的に参加
 - OUCHIの勉強会に参加
- 法人、グループ内の連携
 - 大内病院、OUCHIから新規利用者の情報を定期的にもらい受け入れ実施。
 - 利用者にOUCHIや大内病院の在宅部門の紹介や利用の支援を実施
 - OUCHIや大内病院が参加するイベントなどに参加して地域との連携を強化。
- 地域貢献活動
 - 「OUCHI みんなでごはん」（毎月第3土曜）に参加。地域の方々との交流実施。
 - 「多世代交流祭り」（11月）。地域包括支援センター西新井主催の祭りに参加。
 - 「ヴィレッジマルシェ」（5月、12月）近隣の児童養護施設のイベントに参加。
- 改修工事
 - なし。
- 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
支援者数（人・月）	24.6名	33.9名（+9.3名）	39.0名（+5.1名）
単価（人・月）	15,363円	15,444円（+81円）	15,332円（▲112円）

2025年 6月 3日

2024年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

岩国市岩国第三地域包括支援センター（地域包括）

高齢者事業

岩国市岩国第三地域包括支援センター（地域包括）

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 岩国市委託料が260万減少。介護予防支援事業所としての給付件数は介護予防の取り組みによりプラン終了者が増えた為、昨年度と大きくは変わらず。岩国市への返還金が今年度は無かった。
 - 包括的支援事業
 - 総合相談支援対応として年間延べ4,599件の相談に対応。
 - 権利擁護業務として成年後見等の相談や虐待受付対応を実施。
 - 包括的継続的マネジメント業務としてケアマネからの相談対応。（延べ182件）
 - 認知症総合支援事業や地域ケア会議開催等を実施。
 - 一般介護予防事業として担当区域内の通いの場15箇所、サロン、地区社協行事で講話や体力測定を実施。
 - 灘地区青木沖自治会で介護予防教室を開催し、住民主体の「通いの場」ができた。
 - 介護予防・日常生活支援総合事業
 - 今年度は要支援2も最長1年期間と設定された。地域資源につなぎサービス終了を目指すプランニングを実施した。
 - サービスの質
 - 多種多様な相談に面接技術を駆使して懇切丁寧に対応した。
 - 人材の確保、育成
 - 主任ケアマネ1名、社会福祉士2名、保健師1名の配置で運営。外部内部の研修に参加しスキルアップを図った。
 - 新型コロナウイルス等感染症への対応
 - 基本的な感染症対策を徹底した。業務継続計画に基づき研修、訓練を実施。
- 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2023年度	2024年度	2025年度 目標
ケアプラン数	1,994名	2,025名（+31名）	1,723名（▲302名）

2024年度 事業報告書

2024年 4月 1日 ～ 2025年 3月 31日

2025年 6月 3日

社会福祉法人 平成記念会

サポートハウス ココロネ住吉

2024年度 事業報告の概要

概要

- 医業収益は2024年度で順調に増加。23年度から24年度にかけ+228百万円の増収。
- 医業費用も増加傾向だが、収益増に比べて抑えられており、収支改善に寄与。
- 医業利益は23年度の赤字から24年度に黒字転換。
- 経常利益も同様に改善。
 - 要因
 - 療養介護における基本報酬の区分見直しを行い、月約4百万円の増収。
 - 短期入所と長期入所の割合を変更し、安定的な病床稼働率の確保。

経営指標

医業収支

	23年度	24年度	25年度 目標	要点
- 医業収益	<u>744百万円</u>	973百万円 (+229百万円)	1,063百万円 (+90百万円)	療養介護の報酬区分 変更にて4百万/月増
- 医業費用	<u>818百万円</u>	899百万円 (+81百万円)	962百万円 (+63百万円)	
- 医業利益	<u>▲73百万円</u>	73百万円 (+146百万円)	101百万円 (+28百万円)	
- 経常利益	<u>▲71百万円</u>	70百万円 (+141百万円)	94百万円 (+24百万円)	

() は、対前年

入院・外来・救急・手術・健診部門（病院）

	23年度	24年度	25年度 目標	要点
- 入院 稼働率全体	<u>70.9%</u>	90.8% (+19.9%)	99.0% (+8.2%)	50床での稼働率
- 外来 患者延数	<u>9,022名</u>	9,221名 (+2.2%)	7,662名 (▲16.9%)	短期入所（外来扱い） の病床数減による
患者数／日	<u>30.7名</u>	31.6名 (+2.9%)	26.7名 (▲15.5%)	短期入所（外来扱い） の病床数減による

	23年度	24年度	25年度 目標	要点
- 医療型障害児入所	<u>2,232名</u>	2,913名 (+30.5%)	2,555名 (▲12.3%)	
- 療養介護	<u>7,867名</u>	11,374名 (+44.6%)	13,140名 (+15.5%)	
- 短期入所	<u>1,350名</u>	1,074名 (▲20.4%)	932名 (▲13.2%)	短期入所5床⇒3床
- 生活介護 (ココロネリビング)	<u>1,030名</u>	1,514名 (+47.0%)	2,061名 (+36.1%)	
- 放課後等デイサー ビス (ココロネクラブ)	<u>592名</u>	895名 (+51.2%)	969名 (+8.3%)	

名：延利用者数

■ その他

- 補助金等

- 2024年度

- 兵庫県入院時食事療養支援事業補助金
 - 320,000円
- 兵庫県看護職員等処遇改善事業補助金
 - 279,000円
- 兵庫県重症心身障害児運営費補助金
 - 3,304,800円
- 兵庫県重症心身障害児指導費加算金
 - 787,800円
- 兵庫県介護職員処遇改善支援補助金
 - 911,098円
- 大阪府介護職員処遇改善支援補助金
 - 56,170円
- 神戸市重症心身障害児者対象加算給付
 - 4,128,000円
- 神戸市重症者生活介護看護師送迎支援加算
 - 1,107,000円
- 神戸市障害児通所支援事業所等における性被害防止対策に係る設備支援
 - 23,000円
- 神戸市医療型障害児入所施設等運営費補助金
 - 8,650,800円
- 神戸市医療型障害児入所施設等指導費加算金
 - 2,082,600円
- 堺市重症心身障害児特別介護加算金
 - 388,800円
- 兵庫県医療機関等における物価高騰対策一時支援金
 - 1,500,000円
- 兵庫労働局トライアル雇用助成金
 - 360,000円

- 2024年度分合計：23,899,068円

- 2023年度分（2024年度計上）

- 兵庫県重症心身障害児運営費補助金
 - 2,170,000円
- 兵庫県重症心身障害児指導費加算金
 - 522,600円

- 2023年度分合計：2,693,400円

- **補助金等合計：26,592,468円**

入院

■ 全体〈50床〉

● 概要

- 稼働率は90.8%となり、前年度から大幅に上昇。
- 単価は1人1日あたり39,045円で、前年比348円の増加
 - 2023年度の半期が入院基本料10対1であったのに対し、2024年度は7対1を適用していたことが要因。
- 年間収益は615百万円となり、前年（457百万円）比で34.6%の増収。
- 稼働率の改善が収益拡大に大きく寄与し、経営の安定化が進んだ。

● 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 稼働率	<u>70.9%</u>	90.8% (+ 19.9%)	99.0% (+ 8.2%)
- 単価／人・日	<u>38,697円</u>	39,045円 (+ 348円)	38,919円 (▲ 126円)
- 収益	<u>457百万円</u>	615百万円 (+ 34.6%)	668百万円 (+ 8.6%)

■ 入院料別

Ⅱ 障害者施設等入院基本料 7対1〈50床〉

● 概要

- 看護職員の休職や退職等により、2025年3月より障害者施設等入院基本料7対1から10対1へ変更

● 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 稼働率	<u>70.9%</u>	90.8% (+ 19.9%)	99.0% (+ 8.2%)
- 単価／人・日	<u>38,697円</u>	39,045円 (+ 348円)	38,919円 (▲ 126円)
- 収益	<u>457百万円</u>	615百万円 (+ 34.6%)	668百万円 (+ 8.6%)

外来部門

■ 全体

- 概要

- 2024年度の延べ利用者数は9,221名で、前年度比2.2%の増加。
- 一日あたりの平均利用者数は31.6名で、前年度比2.9%の増加。
- 一人あたりの単価は7,792円で、前年より646円の減少。
 - 短期入所の減床による外来診療単価減の影響。
- 総収益は71百万円で、前年より15.5%の減少。

- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 患者延数	9,022名	9,221名 (+2.2%)	8,594名 (▲6.8%)
- 患者数/日	30.7名	31.6名 (+2.9%)	26.7名 (▲15.5%)
- 単価	8,438円	7,792円 (▲646円)	7,740円 (▲52円)
- 収益	85百万円	73百万円 (▲14.1%)	67百万円 (▲8.2%)

■ 診療科別

|| 小児科

- 概要

- 年間の延べ利用者数は1,195名となり、前年度比で16.4%の増加。
- 一日あたりの患者数は4.09名となり、前年から16.9%の増加。

- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 患者延数	1,027名	1,195名 (+16.4%)	1,191名 (▲0.3%)
- 患者数/日	3.5名	4.09名 (+16.9%)	4.2名 (+2.6%)

リハビリテーション科

概要

- 年間の患者延数は4,646名で、前年度（6,137名）から24.3%の減少。
- 一日平均患者数も15.9名となり、前年（20.9名）に比べ23.9%の減少。
 - これらの減少は、短期入所（外来扱い）の病床数が減少したことが主な要因。

指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 患者延数	6,137名	4,646名 (▲24.3%)	4,620名 (▲0.6%)
- 患者数／日	20.9名	15.9名 (▲23.9%)	16.1名 (+1.3%)

訪問診療

概要

- 一日平均患者数は5.9名で、前年（6.3名）と比べ▲6.3%の減少となりましたが、ケアホーム住吉への訪問診療が主であることから、おおむね横ばいの推移
 - ケアホーム住吉への定期訪問診療および急変時の往診対応。

指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 患者延数	1,858名	1,746名 (▲6.0%)	1,785名 (+2.2%)
- 患者数／日	6.3名	5.9名 (▲6.3%)	6.3名 (+6.8%)

関連事業

医療型障害児入所施設〈50床〉

概要

- 一日平均利用者数は8.0名で、前年度（6.1名）から増加。2025年度は7.0名を目標。
 - 18歳到達にて療養介護（障害者総合支援法）へ移行のため。
- 単価は1人1日あたり12,113円で、前年度比+1,618円の増加。
 - 2024年度報酬改定における処遇改善加算率の引上げによるもの。
 - 2025年1月から「保育職員加配加算」算定開始によるもの。
 - 2025年度は同水準の12,124円を想定（+11円）。

- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 利用者数／日	<u>6.1名</u>	8.0名 (+31.1%)	7.0名 (▲12.5%)
- 単価／人・日	<u>10,495円</u>	12,113円 (+1,618円)	12,124円 (+11円)
- 収益	<u>23百万円</u>	35百万円 (+52.1%)	32百万円 (▲8.6%)

Ⅱ 療養介護〈50床〉

- 概要

- 一日平均利用者数は31.2名で、前年度（21.5名）から+45.1%と増加。
- 単価は1人1日あたり7,221円で、前年度（5,388円）から+1,833円の増加。
 - 2024年度報酬改定における処遇改善加算率の引き上げと、療養介護サービス費がⅢからⅠに変更したことが主な要因。
-

- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 利用者数／日	<u>21.5名</u>	31.2名 (+45.1%)	36.0名 (+15.4%)
- 単価／人・日	<u>5,388円</u>	7,221円 (+1,833円)	9,903円 (+2,682円)
- 収益	<u>43百万円</u>	84百万円 (+95.3%)	135百万円 (+60.7%)

Ⅱ 短期入所〈5床⇒3床〉

- 概要

- 年間の利用者延数は1,074名で、前年度（1,350名）から20.4%の減少
 - 短期利用病床数の減少（長期入所へ転換）による。
- 単価は1人1日あたり41,642円となり、前年度（37,612円）から4,030円の増加。
 - 2024年度報酬改定における処遇改善加算率の引き上げと、重症心身障害児者の利用率による特別重度支援加算の比率による。
 - 医療型短期入所サービス費（Ⅱ）⇒（Ⅰ）への引上げ（+253単位）による。

- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 利用者延数	<u>1,350名</u>	1,074名 (▲20.4%)	932名 (▲13.2%)
- 単価／人・日	<u>37,612円</u>	41,642円 (+4,030円)	43,758円 (+2,116円)
- 収益	<u>67百万円</u>	45百万円 (▲32.8%)	41百万円 (▲8.9%)

Ⅱ ココロネリビング（生活介護）〈10名〉

- 概要

- 年間の利用者延数は1,516名で、前年度（1,030名）から47.2%増加。
- 単価は1人1日あたり17,477円で、前年度（17,045円）から432円の上昇。
 - 2024年度報酬改定における処遇改善加算率の引き上げによる。
 - リハビリテーション加算（Ⅱ）⇒（Ⅰ）への変更による。

- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 利用者延数	<u>1,030名</u>	1,514名 (+47.2%)	2,061名 (+35.9%)
- 単価／人・日	<u>17,045円</u>	17,509円 (+432円)	17,829円 (+352円)
- 収益	<u>18百万円</u>	26百万円 (+44.4%)	37百万円 (+42.3%)

Ⅱ ココロネクラブ（放課後等デイサービス）〈5名〉

- 概要

- 年間の利用者延数は895名で、前年度（592名）から51.2%と増加。
- 単価は1人1日あたり32,160円で、前年度（20,748円）から11,412円の上昇
 - 2024年度報酬改定における処遇改善加算率の引き上げによる。
 - 児童指導員等加配加算の算定開始による。
 - 専門的支援加算の算定開始による。

- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 利用者延数	<u>592名</u>	895名 (+ 51.2%)	969名 (+ 8.3%)
- 単価／人・日	<u>20,748円</u>	32,259円 (+ 11,412円)	32,092円 (▲ 68円)
- 収益	<u>13百万円</u>	29百万円 (+ 113.0%)	31百万円 (+ 6.9%)

以上